ＴＩＭＥ　ＢＯＯＴ

ＲＳＣ－ＭＴ８ＦＰ

詳細版

■　取扱説明書　■

明京電機株式会社

ご購入ありがとうございます

TIME BOOT （RSC-MT8FP） をご購入いただき誠にありがとうございます。

TIME BOOT （RSC-MT8FP）(以下、本装置または本製品と省略） はネットワーク経由でシステム機器の制御／管理をする自動電源制御装置です。８個の 100VAC 電源を個別に遠隔制御／管理できます。また、アウトレット毎の電力を測定することも可能です。これにより、電力量を監視したり、電力により電源をOFF することも可能となります。

さらに、PING による死活監視、電流状態の監視や、年間スケジュール機能をご利用になれます。

本装置が皆様の所有されるネットワークシステムにおいて、有効かつ有用なツールとして機能することを願っております。

最新情報を記載しておりますので購入後、以下のページを必ずご覧ください。

http://www.meikyo.co.jp/support/index.htm

この取扱説明書を必ずお読みください

本書はセットアップ手順と、操作、設置、安全の確保などのための手順が記載されています。

ご使用の前に、必ず本書をお読みください。

付属品一覧

本製品には次の付属品が同梱されています。必ずご確認ください。

1．取扱説明書（保証書）

2．ラック取り付け金具及び取り付けネジ

3．ＣＤ－ＲＯＭ

・取扱説明書（詳細版）　PDF ファイル（本書）

・プライベート MIB ファイル

・その他ユーティリティソフト

内容はＣＤ－ＲＯＭ内の説明をお読みください。

4．RS232C（クロス）ケーブル

5．2P/3P 変換プラグ

安全上のご注意

この取扱説明書での表示では、本装置を安全に正しくお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

⚠警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは家屋家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

分解・改造禁止	⃠ は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は ⃠ の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「分解・改造の禁止」を示します。
電源プラグを抜く	●は、強制（必ずすること）を示します。 具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜くこと」を示します。

警告

●万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く！

煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。火災や感電の原因となります。このようなときは、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店や弊社にお問い合わせください。

電源プラグを抜く

●AC１００V（５０または６０Hｚ）以外の電源電圧では使用しない

表示された電源電圧（交流１００V）以外の電圧で使用しないでください。特に１１０Vを越える電圧では製品を破壊するおそれがあり、火災の原因となりますので、絶対に接続しないでください。

交流１００V

●本装置の電源アースあるいはＦG端子を接地する

本装置の電源プラグのアースあるいはＦG端子を接地してください。感電や故障の原因となります。

アース接地

●本装置前面のACコンセントは１５Aまで

本装置前面のACコンセントは、供給できる容量の合計は最大で１５Aです。合計１５Aを越えて使用しないでください。火災や故障の原因となります。

最大容量１５Aまで

●たこ足配線をしない

本装置の電源は、家庭用電源コンセントから直接取ってください。本装置のACコンセントに、電源用テーブルタップなどを接続して使用しないでください。火災や故障の原因となります。

たこ足配線禁止

●電源コードを大切に

コードに重いものを載せたり、熱器具に近づけたりしないでください。コードが損傷し火災や感電、故障の原因となります。また、コードを 加工したり無理に曲げたり引っ張ったりすることも、火災や感電の原因となるのでおやめください。コードが傷んだ場合はお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。

コードを乱暴に扱わない

●極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない

本装置はパソコン及びパソコン周辺機器と接続する用途に設計されています。人命に直接関わる医療機器などの極めて高い信頼性または安全性が必要とされる機器には接続しないでください。

パソコン機器専用

警告

●ぬれた手で本装置や電源プラグにさわらない
ぬれた手で本装置の操作を行なわないでください。ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。 感電の原因となることがあります。

ぬれた手でさわらない

●本装置の上や近くに水などの液体を置かない
本装置に水などの液体が入った場合、火災，感電，故障などの原因になります。

液体を近くに置かない

●異物を入れない
製品に、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。
万一異物が入った場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。

内部に異物を入れない

●ヘアースプレーなどの可燃物を本装置の上や近くに置いたり、使用したりしない
スイッチの火花などで引火して火災の原因になることがあります。

可燃物禁止

●雷が鳴り出したら製品や電源プラグに触れない
感電の原因となります。本装置には、落雷用保護回路がありますが、ＦＧ端子を接地して、アースされた状態でないと十分な効果を発揮しませんのでご注意ください。

雷のときは、触れない

●分解したり改造したりしない
内部には電圧の高い部分がありますので、カバーをはずして内部の部品に触ったり、製品を改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。

分解・改造禁止

●製品を落したりして破損した場合は
そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、前面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。

電源プラグを抜く

注意

●電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない
電源プラグを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。
コードを引っ張って抜くと傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。

コードを引っ張らない

●風通しの悪いところに置かない
製品を密閉された場所に置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。

風通しの悪い場所禁止

●温度が高くなるところに置かない
直射日光の当たるところや熱器具の近くなど、高温になるところに置かないでください。やけどや火災、故障の原因となることがあります。

温度が高い場所禁止

●お手入れのときは
本装置の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください（絶対に、電源プラグやコネクタなどの接続部をこの方法で拭かないでください）。薬品類（ベンジン・シンナーなど）は使わないでください。変質・変色する場合があります。本体に接続されている電源プラグやコネクタなどの接続部のお手入れは、電源プラグやコネクタを抜いて、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず本装置の電源プラグをコンセントから抜き、本装置に接続されている電源プラグやコネクタ類も全て抜いてから行なってください。感電や故障の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

●湿気やほこりの多いところに置かない
湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。

湿気・ほこり禁止

●逆さまに設置しない
本装置を逆さまに設置しないでください。また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特に、ビニールやゴム製品が接触している状態での使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。

逆さま禁止

●電源プラグとコンセントの定期点検を
電源プラグとコンセントは長時間つないだままでいると、ほこりやちりがたまり、そのままの状態で使用を続けますと、火災や感電の原因となることがあります。定期的な清掃をし、接触不良などを点検してください。

定期点検

●本装置は日本国内のみで使用
国外での使用は、電源電圧などの問題により、本装置が故障することがあります。

国内のみ使用

●不安定な場所やお子様の手の届く所には置かない
ぐらついた台や本装置より面積が小さいものの上や傾いた所、また衝撃や振動の加わる所など、不安定な場所やお子様の手の届く所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがや故障の原因となります。

不安定な場所禁止

●ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない
ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害を与えることがあります。

ラジオ、テレビの近く禁止

●データの保存について
データの通信を行なう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置を行なってください。回線や本装置の障害によりデータを消失するおそれがあります。

バックアップ

●花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを本装置の上に置かない
内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水などが内部に入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。

上にものを置かない

●踏み台にしない
本装置の上に乗らないでください。
倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。

踏み台禁止

目　次

第　１章　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・　11
　１　機能概要
　２　各部の名称と機能
　３　ＤＩＰスイッチの設定
　４　LED 表示について

第　２章　設置・取り付け　・・・・・・・・・・・・・・・　16
　１　設置・取り付け
　２　ラックへの取り付け

第　３章　初期設定　・・・・・・・・・・・・・・・　18
　１　初期設定
　　ＲＰＣサーチソフトを利用する場合
　　ＩＰアドレスを固定にして利用する場合
　２　初期化の方法

第　４章　Ｗｅｂブラウザでの設定、制御　・・・・・・・・・・　23
　１　ログイン
　２　設定項目
　　基本設定
　　　基本設定
　　　　時刻設定
　　　　ブザー音
　　　　機器設定
　　　　WakeOnLAN 設定
　　　　温度センサー設定
　　　　電力測定設定
　　　　データログ設定
　　　詳細設定
　　　　外部接続設定
　　　　ＵＰＳ連動設定
　　　　仮想アウトレット設定
　　　接点設定
　　　　接点入力設定
　　　　接点出力設定
　　　セキュリティ設定
　　　　ユーザーアカウント設定
　　　　セキュリティ詳細設定
　　通信設定
　　　通信基本設定
　　　通信詳細設定
　　　SSH 設定
　　　メール設定

監視設定
ＰＩＮＧ監視
ＰＯＰサーバ監視
温度監視
電流監視
スケジュール設定
パターン編集
カレンダー配置
休日テーブル配置
データファイル管理
コマンドによるスケジュールデータファイル保存／読込
システム情報
ＰＩＮＧ送信
簡易説明
３　状態表示項目
簡易情報表示
監視状態表示
電力計測表示
イベントログ表示
イベントログ
温度センサーログ
４　電源制御
電源制御
接点制御
仮想アウトレット制御
一斉電源制御
５　ＣＰＵリセット

第５章　その他の設定　・・・・・・・・・・・・・・・　83
１　ＴＥＬＮＥＴによる設定
ＴＥＬＮＥＴコマンドによる設定
２　ターミナルソフトによる設定

第６章　その他の制御　・・・・・・・・・・・・・・・　88
１　ＴＥＬＮＥＴ接続による制御
TELNET 接続による制御
２　シリアルからの制御
３　モデムからの制御
４　メールからの制御
５　ＷＥＢコマンドからの制御

第７章　ロギング機能　・・・・・・・・・・・・・・・　97
１　ロギング機能の設定・表示
ログ制御変数のビット構成
ログ表示コマンド
ログの表示形式
記録ログ一覧表

第８章　PPPoE の使用　・・・・・・・・・・・・・・　101
１　ＰＰＥｏＥについて
２　設定について
３　制御について
４　動作について

第９章　シャットダウンスクリプト　・・・・・・・・・・・・・　106
１　スクリプト仕様について
スクリプトの基本動作
設定
ログ
エラー処理
テキスト仕様
PING 確認について

第１０章　無停電電源装置（UPS）との連携　・・・・・・・・・　110
１　本機と無停電電源装置（ＵＰＳ）の接続
２　機器設定

第１１章　SNMP について　・・・・・・・・・・・・・・　113
１　ＳＮＭＰについて
２　機器設定
３　ＭＩＢについて

第１２章　ネットワーク稼動監視　・・・・・・・・・・・・・・　117
１　機器設定
２　ＲＰＣ－ＥＹＥ　ｖ３の利用

第１３章　仕様一覧　・・・・・・・・・・・・・・　120
変数一覧表
ログ一覧表
制御コマンド一覧表
仕様一覧表

問い合せ先
ご注意

第１章
はじめに

１．機能概要

本装置には以下の機能があります。

1）８個の 100ＶＡＣ電源を個別に制御/管理

2）通信による電源制御
・WEB からの電源制御と設定
・SSH/TELNET からの電源制御と設定
・専用ソフトからの電源制御と設定
・PPPoE クライアントとしての接続に対応
・ＳＮＭＰによる電源制御と設定
・E-Mail による電源制御と設定
・シリアル（COM）からの電源制御と設定

3）スケジュールによる制御
・年間スケジュールによる電源制御

4）MAGICPACKET による起動とスクリプトによるシャットダウン

5）監視機能
・電源状態の監視
・ＩＣＭＰによる死活監視（ＰＩＮＧ監視）
・電流状態の監視
・温度状態の監視（要オプション）

6）無停電電源装置（ＵＰＳ）との連携によるシャットダウン処理

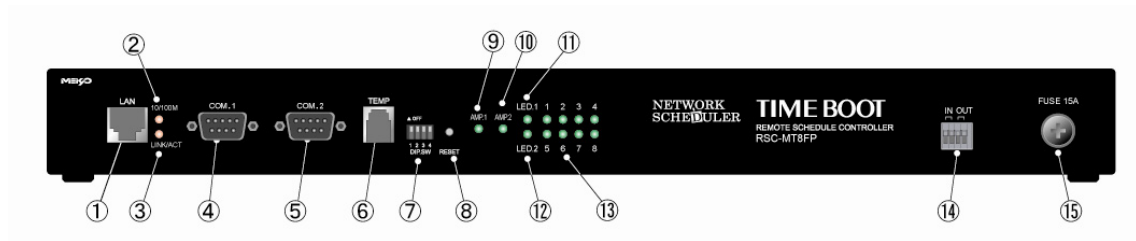
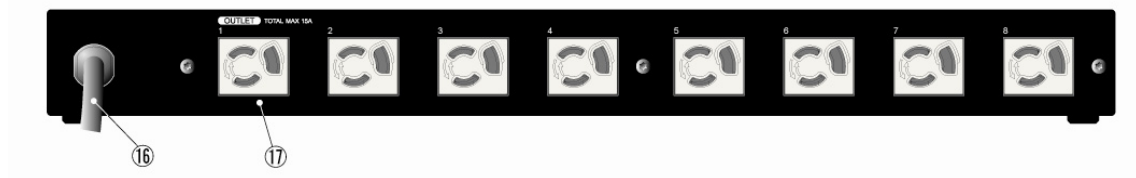
7）各デバイスへの遅延電源投入
・本体電源投入時に、指定した順番、タイミングによる各デバイスの起動

8）通信中継機能
・TELNET クライアント、シリアルコンソールとして通信

9）通知機能
・E-Mail による通知
・ＳＮＭＰによる通知
・SYSLOG による通知
・RPC-EYEｖ３への通知（別売ソフト）

10）通信による遠隔バージョンアップ

2. 各部の名称と機能

フロントパネル

リヤパネル

① LAN	LANケーブル（8ピンRJ45）を接続します。
② LINK/ACT LED	通信状態を表示します。
③ 100/10 LED	LANの通信速度を表示します。
④ COM.1	初期設定用及びUPS及びモデム・シリアル接続用通信ポートとして使用します。
⑤ COM.2	拡張用
⑥ TEMP	温度センサーを接続します。
⑦ DIPスイッチ	初期設定、本体設定に使用します。
⑧ RESETスイッチ	出力電源に影響を与えずにCPUを初期化します。
⑨ ＡＭＰ.1	（未使用）
⑩ ＡＭＰ.2	監視状態が正常の場合に点灯します。
⑪ LED1	本体に電源が投入されている場合に点灯します。
⑫ LED2	（未使用）
⑬ OUTLET LED	ACアウトレットの電源出力状態を表示します。
⑭ ＩＮ　OUT	無電圧入出力信号を接続します。
⑮ FUSE	ガラス管ヒューズ15Aを使用します。
⑯ 電源コード	商用電源、UPSなどに接続します。
⑰ ACアウトレット	デバイスの電源コードを接続します。

３．ＤＩＰスイッチの設定

ＤＩＰスイッチの機能（ＯＦＦは「上」、ONは「下」を意味します。）

NO.	状態	モード
1	OFF	運転モード
	ON	UPS（接点信号式）連携運転モード、中継機能専用モード、初期化
2	OFF	運転モード
	ON	中継機能専用モード
3	OFF	運転モード
	ON	メンテナンスモード、初期化
4	OFF	ＯＦＦに固定
	ON	未使用

ＤＩＰスイッチの設定

ＤＩＰスイッチNO.		1	2	3	4
通常運転時	ＯＦＦ	■	■	■	■
	ON				
UPS 連携運転時	ＯＦＦ		■	■	■
	ON	■			
初期設定時	ＯＦＦ	■	■		■
	ON			■	
初期化時	ＯＦＦ		■		■
	ON	■		■	
中継機能優先モード	ＯＦＦ			■	■
	ON	■	■		

＊　中継機能優先モードでは、シリアルからのコマンドを受け付けなくなります。

注意

DIP スイッチを操作するときは、本体の AC アウトレットから全デバイスを取り外してください。
DIP スイッチ操作また設定終了後は、必ず、本体前面の RESET スイッチを押してください。誤動作する恐れがあります。
初期設定は、第３章　「初期設定」、「初期化の方法」を参照にして設定してください。

４．LED 表示について

本体には４種類のＬＥＤが装備されています。

1）ＬＩNK/ACT　100/10　LED
通信状態を表示します。

ＬＥＤ	ＬＥＤ点灯状態	状　態
ＬＩNK/ACT　LED	点灯	リンク時
	消灯	データ受信時（連続データでは点滅）
100/10　LED	点灯	100BASE-TXでリンク時
	消灯	10BASE-Tでリンク時

2）AMP.2　LED
本体に電源投入されるとグリーンが点灯します。
全アウトレットの死活監視リブート回数の合計が設定値を越えたら点滅します。（初期値は 12 回）
POP サーバへのアクセスエラー時は、点滅します。
温度、電流監視時に、「注意」の時はオレンジ、「警報」の時はレッドが点灯します。

3）ＬＥD.1　LED
本体に電源投入されている場合、点灯します。

4）OUTLET　LED
① ＡCアウトレットの電源出力状態を表示します。
ONの場合　：　点灯
ＯＦＦの場合　：　消灯
② OFF 遅延中、1 秒点滅
③ 死活監視
1. 死活監視の動作が「リブート」または「ログのみ」の場合
（ア）死活監視異常中（出力 ON）は、2 秒点灯→0.25 秒消灯→2 秒点灯
（イ）死活監視スタート後、全ての PING 監視対象から応答を確認するまでの間、1 秒点灯→02.5 秒消灯を繰り返し、その後点灯します。（出力は ON）
2. 死活監視の動作が「ON」の場合
（ア）死活監視異常中（出力 ON）は、2 秒点灯→0.25 秒消灯→2 秒点灯
（イ）死活監視スタート後、全ての PING 監視対象から応答を確認するまでの間、1 秒消灯→0.25 秒点灯を繰り返し、その後消灯します。（出力は OFF）
3. 死活監視の動作が「OFF」の場合
（ア）死活監視スタート後、全ての PING 監視対象から応答を確認するまでの間、1 秒点灯→0.25 秒消灯を繰り返し、その後点灯します。（出力は ON）
「ON」「OFF」の設定はブラウザや制御ＵＴＹからは行えません。変数［deb01WdogAction］を直接変更する必要があります。

第２章
設置・取り付け

１．設置・取り付け

以下の手順で設置します。

１）本体を設置場所に置きます。設置場所は、単相 100ＶＡＣ/15Ａ以上のコンセントに直接差し込める場所で本体背面に電源プラグが、差し込める位置であることを確認します。

２）本体前面のＬＡＮ用コネクタにＬＡＮケーブルを接続します。

３）本体の電源コードをコンセントに接続します。

注意	本装置を逆さまに設置しないでください。火災や故障の原因となることがあります。

２．ラックへの取り付け

以下の手順でラックに取り付けます。

１）本体に同梱のネジ８本でラック・マウント用金具を取り付けます。

２）ラック・キャビネットに本装置を取り付けます。

３）本体前面ＬＡＮ用コネクタにＬＡＮケーブルを接続します。

４）電源コードをコンセントに接続します。

第３章
初期設定

１． 初期設定

1-1　ＲＰＣサーチソフトを利用する場合

ＲＰＣサーチソフトを利用して頂ければ、同一セグメント上の本装置を検索し接続することができます。DHCP 機能を利用した場合のように IP アドレスが分からない場合でも、本装置を検索し接続することができます。ＲＰＣサーチソフトのインストール手順は添付ＣＤ－ＲＯＭの README. txt を参照してください。（DHCP 初期値：有効）

設定用ＰＣと本装置とは、DHCP サーバの存在するＬＡＮに接続します。

1）ＲＰＣサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリックします。

ＲＰＣサーチソフト起動画面

2）検索した機器を選択し、「ＨＴＭＬ接続」ボタンをクリックするとＷｅｂブラウザが起動しログイン画面が表示されます。

ＲＰＣサーチソフト機器検索画面

注意	LINK/ACT　100/10　LED がいつまでも、交互に点滅している時は、DHCP によるアドレス取得ができない状態です。DHCP サーバを確認するか、ＩＰアドレスを固定にしてご利用ください。

1-2　ＩＰアドレスを固定にして利用する場合

DHCP 機能を無効にすると固定の IP アドレスを設定できます。外部のネットワークから接続するために固定の IP アドレスを必要する場合などは、DHCP 機能を無効にして「ＩＰアドレス」を設定します。

設定用ＰＣと本装置とは、ＬＡＮ用コネクタにＬＡＮケーブルで接続します。
（ＰＣと直接接続する場合は、クロスのＬＡＮケーブルになります）

1）LAN や VPN 上に 192.168.10.1 および 2 のＩＰアドレスを持つホストがないことを確認します。

2）設定用 PC のＩＰアドレスとネットマスクを以下の通り設定します。Win9x の場合は設定変更後、再起動が必要です。
　　ＩＰアドレス　　：192.168.10.2
　　ネットマスク　　：255.255.255.0

3）本体前面の DIP スイッチ３ をＯＮ にします。
（メンテナンスモードになり、IP アドレスが 192.168.10.1 となります。）

4）本体前面の RESET スイッチを押します。

5）設定用 PC の Web ブラウザを起動します。
http://192.168.10.1 を指定し、本装置にアクセスします。

注意	ブラウザは JavaScript とフレームに対応している必要があります。

6）Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｍｅｎｕ画面が表示されます。

7）「ＤＨＣＰ機能」を無効にチェックし「適用」をクリックします。その後、ＩＰアドレス欄にご利用になる LAN に適切なＩＰアドレスを入力します。

8）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

9）本体前面の DIP スイッチ３ をＯＦＦ にします。（運用モードにします。）

10）本体前面の RESET スイッチを押します。

11）Web ブラウザを閉じます。

12）設定用 PC のＩＰアドレスを元に戻します。
Win9x の場合は設定変更後、再起動が必要です。

注意	設定後は、必ず「適用」をクリックし、「RESET スイッチ」を押してください。「RESET スイッチ」を押さないと設定が反映されません。

２． 初期化の方法

本装置を初期化して出荷状態に戻します。

（まだ電源コードをコンセントに接続しないでください。）

1）本体前面のＤＩＰスイッチ１と３ のみON（下） にします。

2）電源コードをコンセントに接続し、電源を供給します。

3）本体前面のLINK/ACT LED が５秒間点灯します。点灯中に本体前面のＲＥＳＥＴスイッチを１秒程度、押します。

4）初期化が成功するとLINK/ACT LED とAMP.2 ＬＥDが点灯します。

5）RESET スイッチを押す前にLINK/ACT LED が消灯してしまった場合は一旦電源コードを抜き、電源を供給からやり直してください。

6）初期化後は、ＤＩＰスイッチを全てOFF（上）にし、再度電源を供給してからご使用ください。

7）以上で初期化が終わりましたので、前項目の「初期設定」から実行してください。

注意	初期化中には本体の電源を切らないで下さい。

第４章
Ｗｅｂブラウザでの設定、制御

１．ログイン

インターネットでアクセスする場合は、通信機器の設定が必要です。通信機器の設定などは通信機器のマニュアルに従ってください。（PROXY 経由ではご利用になれません）

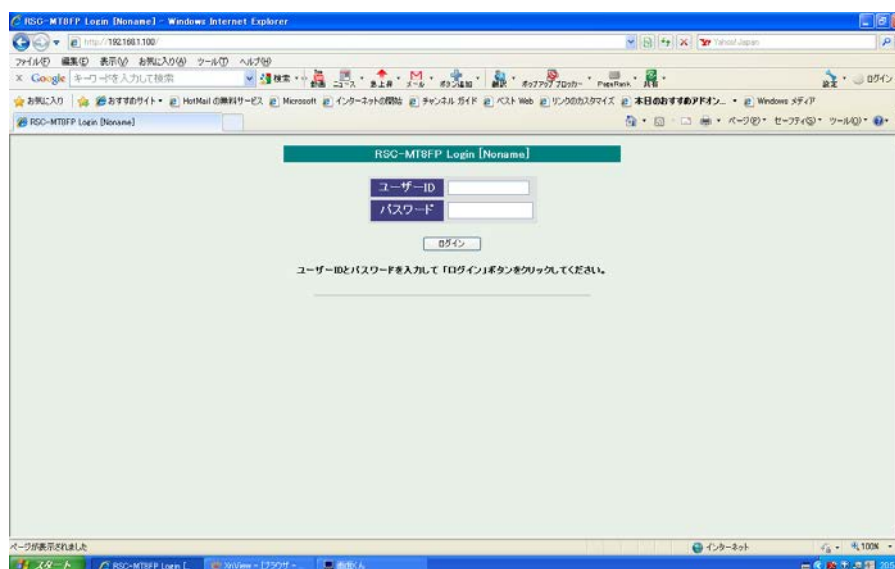
注意	ブラウザは JavaScript とフレームに対応している必要があります。半角記号”？”,”＝”,”％”,″&″,″,(カンマ)″,″(ダブルクォーテーション)は入力しないで下さい。

1）ＲＰＣサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリック検索した機器を選択し、「ＨＴＭＬ接続」ボタンをクリックする。またはＷｅｂブラウザを起動し、本装置に設定されたＩＰアドレスを指定してアクセスします。

（例　ＩＰアドレス　：　192.168.10.1　）

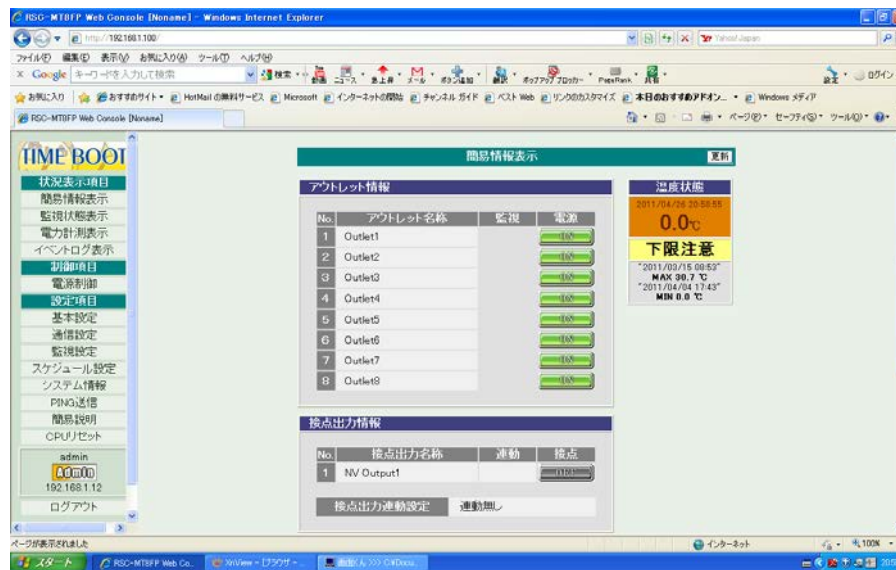
ＨＴＴＰポート番号「80」デフォルトの場合
http://192.168.10.1

ＨＴＴＰポート番号「500」に設定した場合
http://192.168.10.1：500

ログイン画面

2）ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。

ユーザー名　：　admin　（デフォルト）
パスワード　：　magic　（デフォルト）

3）簡易情報表示画面が表示されます。

簡易情報表示画面

注意	簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

2．設定項目

2-1　基本設定

2-1-1　基本設定

本装置の基本的な設定をします。

1）画面左側設定項目の「基本設定」をクリックします。基本設定画面が表れます。

2-1-1-1　時刻設定

1）時間設定の「時刻設定」をクリックします。時刻設定画面が表されます。

時刻設定画面

ＰＣの時刻による設定

「適用」をクリックすると接続されたＰＣの時刻に設定されます。

2-1-1-2　ブザー音

ブザー音に関する設定をします。

ブザー制御　　：テスト音を制御できます。
ブザー音　　　：無効　有効を選択します。

2-1-1-3　機器設定
機器に関する設定をします。

機器名称：　機器名称を設定します。
設置場所：　設置場所を設定します。
全角 9 文字、半角英数字 19 文字以内

① アウトレット名称：　個別アウトレットの名称を設定します。
全角 10 文字、半角英数字 20 文字以内

② OFF 遅延
個別アウトレットの電源出力を停止する際の OFF 遅延時間を設定します。シャットダウンスクリプトを利用する場合は、スクリプトが動作してシャットダウンが終了するまでに必要とされる十分な時間を設定してください。「 -1 」設定は、電源 OFF 操作を禁止にし、リブート操作のみ有効とします。ルーターやハブなど誤操作による電源ＯＦＦを避けたい場合に便利です。（電源切断により、ネットワークへアクセスできなくなるケースを回避します。）この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

・個別アウトレット制御のＯＦＦ操作
・全アウトレット制御のＯＦＦ操作

デフォルト　：　0

設定可能値　：　-1 ～ 3600（秒）

「 -1 」　：　アウトレット制御の OFF 操作を使用不可にします。リブート操作のみ可能です。
「 0 」　：　即座に電源出力を停止します。

「 1～3600 」　：　指定した時間遅延させた後、電源出力を停止します。

③ 再投入
個別アウトレットの電源出力を停止してから開始するまでの時間を設定します。この設定により、接続された任意のデバイスに最適なリブート時間を確保できます。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。
・個別アウトレット制御のリブート操作
デフォルト　：　10
設定可能値　：　8 ～ 3600（秒）

④　ON 遅延

個別アウトレットの電源出力を開始するまでの時間を設定します。この設定により、指定した順番に、指定したタイミングで個別アウトレットの電源出力を開始させることができます。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

・本体電源投入時（起動条件により ON する場合）
・全アウトレット制御のＯＮ操作
・全アウトレット制御のリブート操作

デフォルト　：　No.1-1　No.2-2　No.3-3　No.4-4
No.5-5　No.6-6　No.7-7　No.8-8

設定可能値　：　-1 ～ 3600（秒）

「 -1 」　：　自動で電源出力を開始しません。

「 0 」　：　即座に電源出力を開始します。

「1～3600 」　：　指定した時間遅延させた後、電源出力を開始します。

⑤　全アウトレット再投入時間

全アウトレットの電源出力を停止してから電源出力を開始するまでの時間を設定します。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。
注）個別アウトレットの再投入時間は反映されません。
・全アウトレット制御のリブート操作

デフォルト　：10
設定可能値　：8～3600（秒）

⑥　ＬＥＤによる状態表示機能

有効：監視状態により、各ＬＥＤの状態表示が動作します。
無効：AMP2，ＯＵＴＬＥＴ　ＬＥＤの点滅動作はなくなり、点灯または消灯となります。
デフォルト　：有効

注意	本体起動時のアウトレット出力はスケジュール設定に従います。スケジュール設定がない場合は本体電源断時の状態に戻します。

2-1-1-4　WakeOnLAN 設定

WakeOnLAN に関する設定をします。

アウトレット 1～8 MAC アドレス　デフォルト　：　00:00:00:00:00:00
パケット送信回数　デフォルト　：　2（回）
パケット送信間隔（秒）　デフォルト　：　15

* パケット送信回数は仮想アウトレットと共用です。
* パケット送信間隔は仮想アウトレットと共用です。
* アウトレットが ON した時、マジックパケットを送出します。

WakeOnLAN 機能について

WakeOnLAN 対応の機器を電源出力開始と同時に MAGIC PACKET を送信し、ブートアップさせることができます。

2-1-1-5　温度センサー設定

温度センサーに関する設定をします。

温度センサー　：　有効　無効
記録間隔　：　イベントログに記録する間隔 10 分（デフォルト）

2-1-1-6　電力測定設定

電力測定に関する設定をします。

周波数　：　自動判定　50Hz　60 Hz より選択

2-1-1-7　データログ設定

データログに関する設定をします。

記録間隔　：　イベントログに記録する間隔 10 分（デフォルト）

1）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

2)「送信テスト画面へ」をクリックし、送信テスト画面を表示させ WakeOnLAN 送信テストの各アウトレットの「送信」をクリックすると設定されている「MAC アドレス」の MAGIC PACKET を送信します。

送信テスト画面

注意	「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-1-2　詳細設定

本装置の仮想アウトレット及び COM.1 ポートに関する設定します。

基本設定項目の「詳細設定」をクリックします。詳細設定画面が表示されます。

詳細設定画面

詳細設定

基本設定 | 詳細設定 | 接点設定 | セキュリティ設定

外部接続設定

シャットダウン	スクリプト設定
UPS連動	UPS連動設定

※特殊記号は利用できません。

仮想アウトレット設定 [Wake On LAN]

No.	仮想アウトレット名称	MACアドレス	ON遅延
1			0 秒
2			0 秒
3			0 秒
4			0 秒
5			0 秒
6			0 秒
7			0 秒
8			0 秒

パケット送信回数	2 回
パケット送信間隔	15 秒

COMポート設定

COM1 通信速度	38400bps
COM1 キャラクター長	8 bits
COM1 ストップビット	1 bit
COM1 パリティ	none

適用　リセット

2-1-2-1　外部接続設定
　外部接続に関する設定をします。

2-1-2-1-1　シャットダウンスクリプト設定
本装置にシャットダウンスクリプトに関する設定をします。

1)「スクリプト設定」をクリックします。スクリプト設定画面が表示されます。

スクリプト設定画面

スクリプト設定

アウトレット1　アウトレット2　アウトレット3　アウトレット4
アウトレット5　アウトレット6　アウトレット7　アウトレット8

スクリプト登録(全共通)

登録	スクリプト登録

スクリプト設定 (アウトレット1)

スクリプト実行	◉無効　○有効
スクリプト番号	0
IPアドレス	
Port番号	0
ログインID	
パスワード	
PING実行先	
PING間隔	0
PING回数	0
PING限度	0
メッセージ	

スクリプト内容はtelnet又はコンソールから登録してください

適用　リセット　戻る

①　スクリプト設定（アウトレット*）

スクリプト実行	：	無効、有効
スクリプト番号	：	０（デフォルト）
		１（Windows 用設定が登録済）
ＩＰアドレス	：	ＩＰアドレスを設定します。
Ｐｏｒｔ番号	：	０（デフォルト）
ログインＩＤ	：	最大半角８文字。
パスワード	：	最大半角 16 文字
ＰＩＮG実行先	：	
ＰＩＮG間隔	：	０（デフォルト）
ＰＩＮG回数	：	０（デフォルト）
ＰＩＮG限度	：	０（デフォルト）
メッセージ		

2）シャットダウンスクリプトを設定するアウトレット No をクリックし、選択します。「スクリプト登録」をクリックします。スクリプト設定画面が表示されます。

スクリプト設定画面

スクリプトファイル指定項目に、スクリプトファイルを選択します。

スクリプトエラー時の終了コードによる電源 OFF

終了コードがこの値を超えていたら、電源を OFF しません。

「0」なら、終了コードが 0 のときだけオフにします。

「255」なら、どんなときにもオフにします。

詳細は「第９章　シャットダウンスクリプト」をご参照ください。

2-1-2-1-2　UPS連動設定

UPSの連動に関する設定をします。

1）UPS連動の「UPS連動設定」をクリックします。UPS連動に関する設定をします。

UPS連動設定画面

UPS名称	：	UPS名称を設定します。 全角10文字、半角英数字20文字以内	
UPSモニタ時間間隔	デフォルト	：	10秒
UPSシャットダウン開始時間	デフォルト	：	120秒
停電検地レベル	：	負　正	
ローバッテリー検出レベル	：	負　正	
UPSシャットダウン信号レベル	：	負　正	
UPSシャットダウン有効化	：	無効　有効	

詳細は「第10章　無停電電源装置（UPS）との連携」をご参照ください。

2-1-2-2　仮想アウトレット設定

仮想アウトレットに関する設定をします。

仮想アウトレット名称	：	仮想アウトレット名称を設定します。 全角10文字、半角英数字20文字以内	
MACアドレス	デフォルト	：	00:00:00:00:00:00
ON遅延（秒）	デフォルト	：	0
パケット送信回数（回）	デフォルト	：	2
パケット送信間隔（秒）	デフォルト	：	15

仮想アウトレット

仮想アウトレットとは、実際には存在しないアウトレットであり、関連付けされた MAC アドレスのマジックパケットを送出して、WakeOnLAN 機能を実現させるためのものです。

2-1-2-3　COM ポート設定

COM ポートに関する設定をします。

COM1 通信速度	デフォルト	：	38400bps
COM1 キャラクター長	デフォルト	：	8bits
COM1 ストップビット	デフォルト	：	1bit
COM1 パリティ	デフォルト	：	none

5）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意　「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-1-3　接点設定

本装置の接点入出力に関する設定します。

1）基本設定項目の「詳細設定」をクリックします。詳細設定画面が表示されます。

接点設定画面

2-1-3-1　接点入力設定

接点入力に関する設定をします。

名称　：　接点入力名称を設定します。
　全角 10 文字、半角英数字 20 文字以内

連動電源制御コマンド　：　PONn、POFn、PORn、PSRn
（n＝１～8）
MPON、MPOF、MPOR

連動接点制御コマンド　：　SON1、SOF1

接点入力

接点入力信号が入力された時、連動電源制御コマンド及び連動接点制御コマンドを実行します。（接点が 1 秒（デフォルト）以上短絡された場合を入力と判断します。）

2-1-3-2　接点出力設定

接点出力に関する設定をします。

接点出力連動設定	:	連動なし、電源状態に連動 温度監視に連動、死活監視に連動
名称	:	接点出力名称を設定します。 　全角 10 文字、半角英数字 20 文字以内
連動接点番号	:	連動なし、接点出力
温度上限警報	:	連動なし、接点出力
温度下限警報	:	連動なし、接点出力
死活監視	:	連動なし、接点出力
動作モード	:	ノーマル、リバース

接点出力

接点出力連動設定で設定した条件で接点出力されます。動作モードで「リバース」を選択しますと接点出力は「接点出力開放」状態で出力されます。（接点出力とは接点を短絡することを意味します。）

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意	「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-1-4　セキュリティ設定

本装置にセキュリティに関する設定をします。

2-1-4-1　ユーザーアカウント設定

（WEB および制御ユーティリティからのログイン時に有効）

1）「ユーザーアカウント設定」をクリックします。ユーザーアカウント設定画面が表示されます。

ユーザーアカウント設定画面

セキュリティ設定

ユーザーアカウント設定　セキュリティ詳細設定　基本設定に戻る

※ 入力項目は半角英数のみ有効

Ident（システム情報の参照のみ）

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1			6		
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

Control（システム情報参照と電源の制御のみ）

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1			6		
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

Admin

No.	ユーザーID	パスワード	No.	ユーザーID	パスワード
1	admin	●●●●●	4		
2			5		
3					

適用　リセット

Ｉｄｅｎｔ　：　簡易情報表示と監視状態表示のみ（※　最大 10 件登録）

Ｃｏｎｔｒｏｌ：　簡易情報表示と監視状態表示及び電源の制御のみ（※　最大 10 件登録）

Ａｄｍｉｎ　：　全ての権限（※　最大５件登録）

ユーザーＩＤ　：　最大半角８文字　（重複不可）　（@は不可）
パスワード　：　最大半角 16 文字　（重複可）

2）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意	TELNET 用のパスワードは別途変更する必要があります。

2-1-4-2　セキュリティ詳細設定

1)「セキュリティ詳細設定」をクリックします。セキュリティ詳細設定画面が表示されます。

セキュリティ詳細設定画面

①　ログイン設定

オートログイン　：　有効　無効

オートログインを有効にチェックすると、ブラウザでのログイン時に「ユーザーID」「パスワード」を省略して本器に接続できます。

②　ＩＰフィルター設定

ＩＰフィルター機能　：　有効　無効

アドレス　：　0.0.0.0（デフォルト）

(最大 10 アドレス)

③　ｉｄｅｎｔ　Ｃｏｎｔｒｏｌ権限の表示制限

POS サーバ状態	：	表示、隠す
監視状態表示全体	：	表示、隠す
仮想アウトレット制御	：	表示、隠す
電源 ON ボタン	：	表示、隠す
電源 OFF ボタン	：	表示、隠す
電源リブートボタン	：	表示、隠す
全アウトレット制御ボタン	：	表示、隠す
アウトレット 1-8 関連	：	表示、隠す

「隠す」にチェックするとWEB 接続時、ｉｄｅｎｔ　Ｃｏｎｔｒｏｌ権限での各表示を隠すことが出来ます。（制御ユーティリティでは無効）

2）キーファイルを有効にチェックするとキーファイルを使い暗号化通信が有効になります。

キーファイル（制御ユーティリティ用）

セキュリティのために、キーファイルが使われます。制御ユーティリティで本装置に初めてアクセスすると、自動的に固有のキーコードが生成され、本装置に設定されると共に、ＰＣの制御ユーティリティと同じフォルダ内にキーファイルが作られます。ファイル名は、KEYFILE.KYF です。これ以後は、このファイルが無いとアクセスできません。他のＰＣで制御ユーティリティを使う場合は、このファイルもコピーする必要があります。キーファイル有効は、変数[keyCheck=1]です、TELNET で変数を変更して[keyCheck=0]にすると無効にできます。また、変数「keyCode=″″」としますと、本装置内部のキーファイルをクリアしてデフォルトに戻すことができます。（デフォルト：キーファイル無効）

3）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意	「適用」をクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-2　通信設定

本装置のネットワークに関する設定をします。

2-2-1　通信基本設定

1)「通信基本設定」をクリックします。通信基本設定画面が表示されます。

通信基本設定画面

① ネットワーク設定

ＩＰアドレス	デフォルト	：	192.168.10.1
サブネットマスク	デフォルト	：	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	デフォルト	：	0.0.0.0
ＤＮＳサーバアドレス	デフォルト	：	0.0.0.0
ＤＨＣＰ機能		：	有効　無効
NTP サーバ	デフォルト	：	0.0.0.0
HTTP 機能		：	有効　無効
HTTP ポート	デフォルト	：	80
TELNET 機能		：	有効　無効
TELNET ポート	デフォルト	：	23
TELNET 中継先ＩＰ	デフォルト	：	0.0.0.0
TELNET 中継先ポート	デフォルト	：	23
リンク速度とＤｕｐｌｅｘ	デフォルト	：	自動検知

② 関連項目

無通信タイマー	：	無通信の時間を設定します。
WEB 自動更新機能	：	有効、無効を設定します。
WEB 自動更新間隔	：	WEB 自動更新間隔の時間を設定します。
ダイレクトWEＢコマンド制御	：	有効、無効を設定します。

③ PPPoE 設定

ＩＳＰ名称　：ＩＳＰ名称を入力します。
全角 31 文字、半角英数字 63 文字以内

接続方法　：コマンド接続か常時接続かを選択します。

ユーザーＩＤ　：指定されたユーザーＩＤを設定します。

パスワード　：指定されたパスワードを設定します。

＊ PPPSTA や LOG コマンドで接続を確認できます。「PPPoE の使用」を参照

外部のネットワークから接続するため、IP アドレスを固定にしてルーターのポートフォワーディング機能を利用する場合は、DHCP を無効にします。

2）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意	DHCP 利用中、IP アドレスの取り直しが行われると本装置は自動的に CPURESET を行います。

2-2-2　通信詳細設定

SNMP に関する設定をします。

1）「通信詳細設定」をクリックします。通信詳細設定画面が表示されます。

通信詳細設定画面

① SNMP基本設定

SETGET 設定		：	有効　無効
GET コミュニティ名	デフォルト	：	public
SET コミュニティ名	デフォルト	：	public
TRAP コミュニティ名	デフォルト	：	public
マネージャーTrap		：	有効　無効
AuthenTpap		：	有効　無効
トラップＩＰアドレス	デフォルト	：	255.255.255.255 （最大８ＩＰアドレス）

② SNMPフィルター設定

SNMPフィルター機能		：	有効　無効
フィルターＩPアドレス	デフォルト	：	0.0.0.0
フィルターマスク	デフォルト	：	255.255.255.255 （最大 10 アドレス）

③ 状態通知機能

状態通知機能		：	SYSLOG、RPC-EYE 無効
通知先センターアドレス 1-8	デフォルト	：	0.0.0.0
通知先センターポート 1-8	デフォルト	：	5000
送信間隔（秒）	デフォルト	：	300

状態通知機能については、「第 12 章　ネットワーク稼動監視」をご参照ください。

④　一斉電源制御受付

機能有効とグループ指定　　　　　　：　有効　1～8 グループ

制御側MACアドレス制御　　　　　　：

一斉電源制御

一斉電源制御機能とは、最大８グループに分けられた複数の本装置を、グループ単位に制御する機能のことです。ブロードキャストパケットを利用しています。一斉電源制御受付では、本装置をどのグループにするかを設定します。制御側MACアドレス制御を設定すると、設定した機器からの制御でのみ動作することになります。

⑤　アウトレット連動一斉制御送信

制御	：	指定なし	1～8 グループ
動作	：	無動作	連携なし
		電源 ON	電源 ON 時に ON 一斉制御送信
		電源 OFF	電源 ON 時に OFF 一斉制御送信
		リブート	電源 ON 時にリブート一斉制御送信
		同期	電源 ON 時に ON 一斉制御送信 電源 OFF 時に OFF 一斉制御送信

アウトレット連動一斉制御送信

アウトレット連動一斉制御送信とは、設定アウトレットの電源操作に連動して設定されている機器グループに対して一斉制御命令を送信する機能です。

2）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意　「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-2-3　SSH 設定

SSH サーバ機能の設定を行います。

1）「SSH 設定」をクリックします。SSH 設定設定画面が表示されます。

SSH 設定設定画面

① ＳＳＨ　ＫＥＹ表示

sshPublicDsaKey	：	SSH.DSA 公開鍵を表示します。
sshPublicRsaKey	：	SSH.RSA 公開鍵を表示します。
sshKnownHost1-8	：	SSH クライアントとして接続したときにサーバから受け取ったキーを表示します。

② ＳＳＨ設定

SSH サーバー	：	サーバ機能の有効/無効を選択（デフォルト：無効）
SSH サーバーのポート	：	SSH サーバのポート番号を設定（デフォルト：22）
SSH サーバー無通信時間（分）	：	SSH サーバの無通信時間を設定（デフォルト：10 分）
SSH サーバー名	：	SSH サーバー名を設定（デフォルト：admin）
SSH サーバーパスワード	：	SSH サーバーのパスワードを設定

2）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

3）ＳＳＨサーバ機能を使うためにはＤＳＡキーとＲＳＡキーを作成する必要があります。ＴＥＬＮＥＴまたはシリアル通信でログインした後、次のコマンドを実行します。

ＫＥＹＧＥＮ＿ＤＳＡ
ＫＥＹＧＥＮ＿ＲＳＡ　　　（＿はスペース）

作成中[．]が表示されます。作成には数分間必要です。ＣＰＵリセット後有効になります。

注意	SSH は、OPEN SSH 5.1p1 を使用しています。

2-2-4　メール設定

監視機能で異常時および復旧時にメールを送信するアドレスを設定します。

1）「メール設定」をクリックします。

メール設定画面

① メールサーバ設定

ユーザー名、パスワード、メールアドレス、POP サーバ名、SMTP サーバ名は、プロバイダからのメール資料に基づき設定します。

自動ログアウト時間（分）　デフォルト　：　10
メールチェック間隔（分）　デフォルト　：　３
メールリトライ間隔（秒）　デフォルト　：　10
（変数 mailRetryCount で設定した回数送信します。デフォルト：３回）
ＰＯＰ３ポート　デフォルト　：　110
ＳＭＴＰポート　デフォルト　：　25
ＡＰＯＰ利用　：　有効　無効
ＳＭＴＰ－ＡＵＴＨ利用　：　有効　[CRAM-MD5]
無効

メール制御コマンド有効　６章　4．メールからのコマンド参照
無効　：　メール制御を無効にします。
ログイン方式　：　ログイン方式でメール制御を実行します。
パスワード方式　：　パスワード方式でメール制御を実行します。
（デフォルト：空）

メール制御パスワード　：　パスワードを入力します。
（メール制御コマンド有効でパスワード方式を選択した時、表示します。）

メール制御許可アドレス
制限なし　：　制限なしでメール制御許可します。
通知先アドレスのみ　：　通知先アドレスのみメール制御許可します。

送信メール　件名　６点より選択
送信メール　本文１行目　表示無し　機器名称
送信メール　本文２行目　設置場所　機器ＩＰアドレス
送信メール　本文３行目　ＭＡＣアドレス　イベント内容
送信メール　本文４行目

② 通知先設定

通知先アドレス
通知するメールアドレスを設定します。
最大８件設定できます。

イベント
チェックしたイベントに連動してメールが送信されます。例えば、「死活」では死活監視が[異常]または[回復]に変化した時にメールを送信します。

PPPoE
チェックをつけたアドレスに、PPPoE 通信で取得したＩＰアドレスなどの情報をメールします。

ログ送信カウント　：　設定した数だけログが更新されると通知先アドレスにログを送信します。
（MAX：20　０の時は送信しません。）

③　エラーメッセージ情報
メールに失敗したエラー情報を表示します。
クリアにチェックして「適用」をクリックすると消去できます。

2）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

3）「送信テスト画面へ」をクリックし、送信テスト画面を表示させテストメール送信の「送信」をクリックすると設定されている通知先アドレスにテストメールを送信します。

送信テスト画面

注意	「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。 メール送信のみの利用で POP 認証を行わない場合でも、ユーザー名、パスワードは必要です。ダミーデーターを設定してください。 設定したメールアドレスのメールサーバ内のメールは、メールチェック間隔でメールサーバ内のメールをチェックした後、削除されます。

2-3　監視設定

本装置の監視に関する設定をします。

2-3-1　ＰＩＮＧ監視

1）「監視設定」をクリックします。ＰＩＮＧ監視設定画面が表示されます。

ＰＩNG監視設定画面

「詳細設定」にチェックし、「適用」をクリックします。ＰＩＮＧ監視詳細設定画面が表示されます。

ＰＩＮＧ監視詳細設定画面

①　監視先：　監視するＩＰアドレス又はドメイン名を設定します。
各アウトレットに最大４ヶ所設定できます。（詳細設定のみ）
例　ＩＰアドレス　：　192.168.0.1
例　ドメイン名　　：　www.meikyo.co.jp

②　ＤＧ：　チェックでデフォルトゲートウェイを監視先に指定します。

③　送信：　判断するための送信する回数を設定します。
1～100 の整数

④　無答：　送信回数内で異常と判断する無応答回数を設定します。
1～100 の整数

⑤　対象：　動作を実行させるための異常な監視先アドレスの数を設定します。
1～4（詳細設定のみ）

⑥　動作：　動作を選択します。
　　　　無動作　　：ＰＩＮＧ監視を行いません。
　　　　リブート　：ログに記録し、電源出力をＯＦＦ／ＯＮします。
　　　　ログのみ　：ログに記録します。電源は制御しません。

⑦　PING 送信間隔（分）：ＩＣＭＰエコー要求パケットの送信間隔を設定します。1～60 の整数

⑧　死活監視リブートによる警告（回）：　デフォルト　12 回
　AMP.2　ＬＥＤを点滅させる全アウトレットの死活監視リブート回数

⑨　回復不可時の１時間ごとの繰り返し回数制限（回）　：デフォルト　０（無制限）

2）「アウトレット 5～8 設定」をクリックし、同様にアウトレット 5～8 の設定をします。

3）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

監視設定が有効なアウトレットはアウトレット番号の背景色が「青色」に変わります。
また、ＰＩＮＧ監視が正常な場合は監視番号の背景色が「青色」に変わり、異常が発生している場合は「赤色」、回復中は「黄色」に変わります。

注意	「動作」実行後、応答のない状態が続く場合は、約 1 時間毎に設定された動作を実行します。「異常」中は、再度、条件が成立しても動作は 1 時間に 1 度しか実行しません。

ＰＩＮＧ監視の仕組みと動作

監視先アドレスに対して［PING 送信間隔］で設定した間隔でＩＣＭＰエコー要求パケットを 1 個送出し、応答を待ちます。設定した[送信]回数内で設定した[無答]回数、無応答であるとその監視先を異常と判断します。異常と判断された監視先が［対象」数に達すると、そのアウトレットを異常と判定し、設定した[動作]を実行します。

異常と判断した監視先が、対象数に達すると、アウトレットを異常と判定し動作します。
異常と判定した後、
　監視先すべてから応答があると→「正常」と判定します。
　一部の監視先から応答があり、異常と判断した監視先が対象数を下回ると→「回復中」と判定します。
　「正常」「回復中」になった後は、再び、同じ条件で監視を行います。

2-3-2　ＰＯＰサーバ監視

1)「ＰＯＰサーバ監視」をクリックします、ＰＯＰサーバ監視設定画面が表示されます。

ＰＯＰサーバ監視設定画面

① ＰＯＰサーバ監視

接続障害回数　　：　ＰＯＰサーバを異常と判断する回数を設定します。

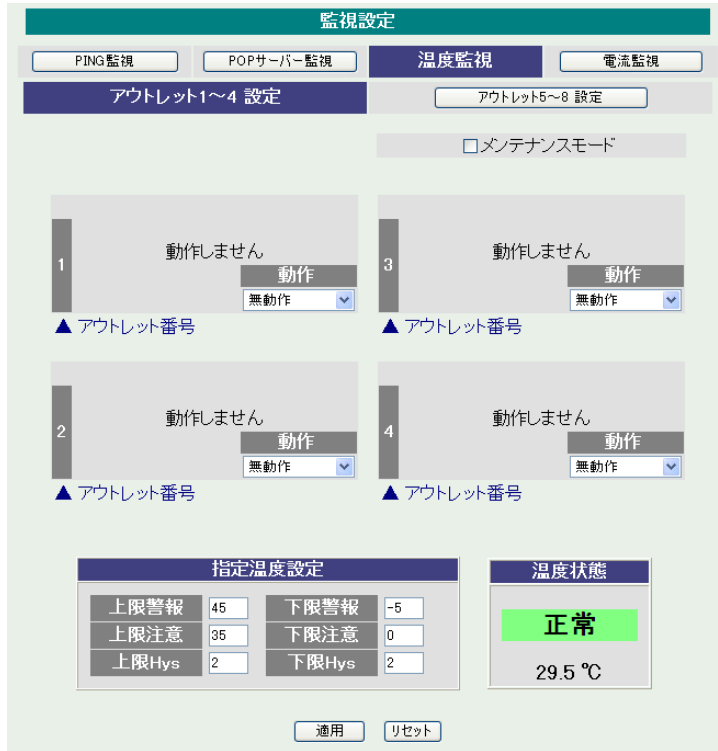
動作　　　　　　：　無動作　：監視を行いません。
　　　　　　　　　　リブート：ログに記録し、電源出力をＯＦＦ／ＯＮします。
　　　　　　　　　　ログのみ：ログに記録します。電源は制御しません。

動作はＰＩＮG監視と共通の設定になります。

② 現在のＰＯＰサーバ設定

ＰＯＰサーバ接続障害回数　：　ＰＯＰサーバ接続障害回数を表示します。

メールチェック間隔（分）　：　ＰＯＰサーバのチェック間隔（デフォルト　３分）

2)「アウトレット 5～8 設定」をクリックし、同様にアウトレット 5～8 の設定をします。

3) 設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意	ＰＯＰサーバ監視を行う場合はＰＯＰ３サーバの設定が必要になります。 ＰＯＰサーバー監視とＰＩＮG監視（または温度監視）の両方を設定すると、いずれかが異常になった時点で動作を実行します。

2-3-3　温度監視

1）「温度監視」をクリックします、温度監視設定画面が表示されます。

温度監視設定画面

２）本装置と温度センサー（別売）を接続します。

①　温度に関する設定をします。

上限警報　：　高温の警報温度を設定します。
（デフォルト：45℃）

上限注意　：　高温の注意温度を設定します。
（デフォルト：35℃）

上限Ｈｙｓ　：　高温のヒステリシス温度を設定します。
（デフォルト：　2℃）

下限警報　：　低温の警報温度を設定します。
（デフォルト：-5℃）

下限注意　：　低温の注意温度を設定します。
（デフォルト：　0℃）

下限Ｈｙｓ　：　低温のヒステリシス温度を設定します。
（デフォルト：　2℃）

動作　：　警報の時の動作を設定します。
無動作　上限警報ＯＮ　下限警ＯＮ
上限警報ＯＦＦ　下限警ＯＦＦ

② 温度範囲（測定温度範囲は-10～80℃）

正常範囲　：　下限注意から上限注意までの温度

注意範囲　：　上限注意から上限警報までの温度
　　　　　　　下限警報から下限注意までの温度
異常範囲　：　上限警報以下の温度
　　　　　　　下限警報以下の温度

３）温度センサーを利用する
チェックすると温度センサーが利用でき、温度データを表示します。

4）メンテナンス
チェックすると電源制御を行わない。

5）「アウトレット 5～8 設定」をクリックし、同様にアウトレット 5～8 の設定をします。

注意	「温度監視」を設定すると、「PING 監視」は設定できません。

温度監視の仕組みと動作

状態は、指定した温度により、「正常」から「注意」、「注意」から「警報」に変化します。
しかし、「警報」から「注意」、「注意」から「正常」への状態変化には、指定した温度にヒステリシス温度を加えた変化が必要です。これにより閾値近辺で状態が頻繁に変化することを防ぎます。
メールは、温度にチェックがあると、「正常」「注意」「警報」の状態に変化すると送信されます。
電源制御は、「警報」になった場合に実施されます。

2-3-4　電流監視

1）「電流監視」をクリックします、電流監視設定画面が表示されます。

電流監視設定画面

①

監視再スタート　：　電流監視を再スタートします。

力率測定　：　力率測定画面に移動します。

②　電流に関する設定をします。

警報値　：　警報電流値を設定します。

注意値　：　注意電流値を設定します。

Ｈｙｓ値　：　Ｈｙｓ電流値を設定します。

動作　：　警報の時の動作を設定します。
　　無動作　ログのみ　上限警報ＯＦＦ

③　閾値設定

警報値　　　　　　：　全体の警報値となる電流値を設定します。

注意値　　　　　　：　全体の注意値となる電流値を設定します。

Ｈｙｓ値　　　　　：　全体のHys値となる電流値を設定します。

④　CO2 排出係数

CO2排出係数を設定します。

3）メンテナンスモード

チェックすると電源制御を行わない。

4）「アウトレット 5～8 設定」をクリックし、同様にアウトレット 5～8 の設定をします。

電流監視の仕組みと動作

状態は、指定した電流により、「正常」から「注意」、「注意」から「警報」に変化します。
しかし、「警報」から「注意」、「注意」から「正常」への状態変化には、指定した電流にヒステリシスを加えた変化が必要です。これにより閾値近辺で状態が頻繁に変化することを防ぎます。
メールは、電流にチェックがあると、「正常」「注意」「警報」の状態に変化すると送信されます。
電源制御は、「警報」になった場合に実施されます。

2-3-4-1　力率測定

1）「力率測定」をクリックします、力率測定画面が表示されます。

力率測定画面

No.	アウトレット名称	力率値	測定ボタン
1	Outlet1	0.160	測定開始
2	Outlet2	1.000	測定開始
3	Outlet3	1.000	測定開始
4	Outlet4	1.000	測定開始
5	Outlet5	1.000	測定開始
6	Outlet6	1.000	測定開始
7	Outlet7	1.000	測定開始
8	Outlet8	1.000	測定開始

2）アウトレットを指定し、「測定開始」をクリックしますと、力率が測定され「力率値」が画面に表示されます。

注意	力率測定を行う場合、メンテナンスモードを有効にしてください。

2-4　スケジュール設定

本装置のスケジュールに関する設定をします。

スケジュールは、一日のパターンを分単位で作成し、そのパターンを指定の曜日、月日に割り当てることにより作成します。パターンは最大 20 個まで作成できますから、週中と週末のパターンを変えたり、特定の日や、休日用のパターンを作成したりできます。

パターン作成では、一日のパターンを作成します。
カレンダー配置では、アウトレット毎に、パターンをカレンダーに割り当てて作成します。
休日テーブル配置では、オリジナルの休日テーブルを作成します。（初期値は一般のカレンダ通り）
データファイル管理では、設定内容をファイル形式で保存できるようにします。

1）「スケジュール設定」をクリックします。

スケジュール設定画面

①　スケジュール編集

パターン作成	：	1 日のスケジュールパターンを分単位で作成します。
カレンダー配置	：	年間カレンダーにパターンを配置してスケジュールを組み立てます。
休日テーブル配置	：	休日カレンダーをテーブル設定します。
データファイル管理	：	スケジュール関連のデータファイルを管理します。

2-4-1　パターン編集

1）スケジュール設定画面の「パターン作成」をクリックします。

パターン編集画面

2）パターン読込より編集するパターンを選択し、「読込」ボタンをクリックします。
最大 20 パターン編集できます。

パターン編集

パターン内	全ＯＦＦ	：	全てをＯＦＦパターンにします。
	全ＯＮ	：	全てをＯＮパターンにします。
時間指定 開始　時　分～　終了　時　分		：	開始から終了時間をＯＮ、ＯＦＦでパターン配置します。

3）パターン編集終了後、保存先を選択し「適用保存」をクリックします。

2-4-2　カレンダー配置

1）スケジュール設定画面の「カレンダー配置」をクリックします。

スケジュール配置先画面

2）カレンダー配置するアウトレットの「スケジュール設定」をクリックします。

カレンダー配置画面

① 年月設定
年月を指定し配置するカレンダーを選択します。

② 曜日設定
曜日毎にスケジュールパターンを配置し、スケジュールパターンを配置します。

③ 特定日設定
毎月　日　　：　毎月の特定日を設定日にスケジュールパターンを配置します。

毎第　週　曜：　毎月の特定週、曜日にスケジュールパターンを配置します。

毎年　月　日：　毎年の特定月日にスケジュールパターンを配置します。

休日指定　　：　毎年の休日にスケジュールパターンを配置します。

一度指定　　：　特定の年月日にスケジュールパターンを配置します。
年　月　日
＊　右側の欄に「特定日設定」で配置した項目がリスト表示されます。

④ スケジュール取り込み
アウトレット番号を選択し、「読み込み」をクリックすると選択したアウトレットと同じスケジュールパターンを配置します。
＊　読み込んだ後、適用保存をクリックするとカレンダーの表示が変わります。

⑤ 適用保存
「適用保存」をクリックし配置したカレンダーを保存します。

⑥ スケジュールリスト削除
「削除番号」に特定日設定で設定したスケジュールリスト番号を選択し、「削除」をクリックし項目を削除できます。

3）スケジュール配置先画面に戻りスケジュールの「実行ボタン」をクリックします。

注意	スケジュールの優先度は、一度指定 ＞ 休日指定 ＞ 毎年 ＞ 毎第ｎ週ｘ曜日 ＞ 毎月 ＞ 毎ｘ曜日　となっています。 スケジュール設定が設定されるととカレンダーの日付数字の隣にスケジュールパターンの英文字が付きます。 またカレンダーの日付をクリックして指定するとその日のスケジュールパターンが表示されます。 週間スケジュール以外の特定日設定は20個までとなります。

2-4-3　休日テーブル設定

1）スケジュール設定画面の「休日テーブル配置」をクリックします。

休日テーブル配置画面

①　年月設定
　年月を指定し配置するカレンダーを選択します。

②　休日指定
　年月日を指定し、追加、削除を選択し「設置」をクリックします。
　（設定された日はピンク色の背景色に赤文字に変わります。）

③　休日初期化
　「休日初期化」をクリックすると設定した休日が初期化されます。

2）設定が終了しましたら「適用保存」をクリックします。

注意　「適用保存」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。
休日テーブルは設定によっては、「CPU リセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-4-4　データファイル管理

1）スケジュール設定画面の「データファイル管理」をクリックします。

データファイル管理画面

スケジュールデータファイル管理

データファイルの保存／読込

全スケジュールファイル	参照...	読込
	schdata.txt　テキストファイル形式で表示します	表示
全パターンファイル	参照...	読込
	ptndata.txt　テキストファイル形式で表示します	表示
全カレンダーファイル	参照...	読込
	caldata.txt　テキストファイル形式で表示します	表示

ファイル保存は表示ボタンを押した後にブラウザの**名前を付けて保存**を行って保存してください。
※ファイル名は固定です。変更しないでください

キャンセル

①　ファイル保存／読込

「ファイル保存／読込」をクリックし、ファイルの保存／読込します。

保存方法

表示をクリックすると、別のブラウザが開き設定内容が表示されます。
ブラウザの機能を利用して、名前をつけて保存します。（テキストファイル）
ファイル名は変更しないでください。

読込方法

参照をクリックしてファイルを選びます。保存したファイルを選択します。
ファイル名が表示されたら読み込みをクリックします。

全スケジュールファイル　schdata.txt
全パターンファイル　　　ptndata.txt
全カレンダーファイル　　caldata.txt
（休日カレンダー情報含む）

＊　読込んだ後、ＣＰＵリセットにより設定が反映されます。

2）設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

注意	スケジュール機能でアウトレット毎に実行に設定しませんとスケジュールは動作しません。 「適用」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

2-4-5　コマンドによるスケジュールデータファイル保存／読込

TELNET 通信及びシリアル通信を介してコマンドによるスケジュールデータファイル保存、読込が出来ます。

・ アップロードの開始
SCHUPLOAD_n　　（短縮形：SCHUL）
ｎ：パラメータ
　１：スケジュールデータ
　２：パターンデータ
　３：カレンダーデータ
リザルトコード
　230：コマンド受理、データ転送待ち状態
　231：正常終了
※アンダーバーはスペースを表します。

・ アップロードを中断
SCHUPLOADCANCEL（短縮形：SCHULC）
リザルトコード
　232：正常終了

・ ダウンロードの開始
SCHDOWNLOAD_n　　（短縮形：SCHDL）
ｎ：パラメータ
　１：スケジュールデータ
　２：パターンデータ
　３：カレンダーデータ
※アンダーバーはスペースを表します。

注意	TELNET 通信及びシリアル通信の接続は「第五章　その他の設定」を参照してください。 当社ホームページ（http://www.meikyo.co.jp）よりＲＳＣスケジュールデータ管理ソフトをダウンロードし、ご利用して頂ければ、スケジュールデータファイルの保存／読込が簡易に行うことが出来ます。

2-5　システム情報

本装置に設定された各項目の概要情報を一覧で確認できます。

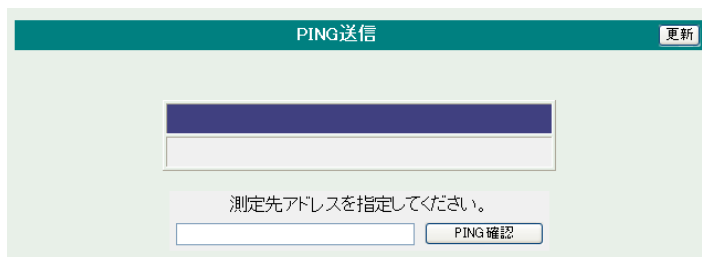
1）「システム情報」をクリックします。

システム情報画面

システム情報　更新

システム基本

機器名称	Noname
バージョン	0.10D.110413
モデル名	RSC-MT8FP
アウトレット1名称	Outlet1
アウトレット2名称	Outlet2
アウトレット3名称	Outlet3
アウトレット4名称	Outlet4
アウトレット5名称	Outlet5
アウトレット6名称	Outlet6
アウトレット7名称	Outlet7
アウトレット8名称	Outlet8
機器内部時間	2011/04/26　22:29:45
仮想アウトレット1名称	
仮想アウトレット2名称	
仮想アウトレット3名称	
仮想アウトレット4名称	
仮想アウトレット5名称	
仮想アウトレット6名称	
仮想アウトレット7名称	
仮想アウトレット8名称	

MACアドレス	00:09:EE:00:01:87
IPアドレス	192.168.1.100
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
NTPサーバーアドレス	（NG）
HTTP機能	有効
HTTPポート	80
TELNET機能	有効
TELNETポート	23
LAN接続速度	100.0Mbps

RS-232C 通信速度	38400bps
RS-232C キャラクター長	8 bits
RS-232C ストップビット	1 bit(s)
RS-232C パリティ	None

2-6　ＰＩNG送信

本装置からのＰＩNG送信の確認できます。

1）「ＰＩNG送信」をクリックします。

ＰＩNG送信画面

①　「測定先アドレスを指定してください。」の欄に測定先アドレスを入力し、「ＰＩNG確認」をクリックして下さい。

②　測定中は「測定中」の表示がされます。

③　測定結果が表示されます。

正常　：Reply from xxx.xxx.xxx.xxx --- time=yyyms
　xxx.xxx.xxx.xxx　：測定先アドレス
　yyy　：応答時間(ミリ秒)

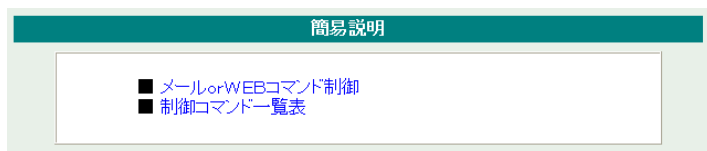
異常　：Request timed out.
　応答が異常時

異常　：Domain name not found.
　ドメイン名が存在しない

2-7　簡易説明

本装置の簡易説明が確認できます。

1)「簡易説明」をクリックします。

簡易説明画面

メール orＷＥＢコマンド制御

メールからの制御

ログイン方式

パスワード方式

WEB からダイレクトコマンド制御

WEB コマンドでの制御方法

利用可能コマンド

制御コマンド一覧表

３．状態表示項目

3-1 簡易情報表示

現在の本装置の電源情報、接点入出力情報、温度状態を表示します。

1）「簡易情報表示」をクリックします。

簡易情報表示画面

注意	簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。 温度センサーを「有効」に設定しませんと温度状態は表示されません。

3-2　監視状態表示

現在の本装置の監視状態を表示します。

1）「監視状態表示」をクリックします。

監視状態表示画面

監視状態表示　更新

アウトレット監視状態／判定条件

No.	電源	死活判定 温度判定	実行数 現在温度	送信数 動作設定	無応答 警報温度	対象数 注意温度	動作 Hys温度
1	ON	正常	0	10	10	1	無動作
2	ON	正常	0	10	10	1	無動作
3	ON	正常	0	10	10	1	無動作
4	ON	正常	0	10	10	1	無動作
5	ON	正常	0	10	10	1	無動作
6	ON	正常	0	10	10	1	無動作
7	ON	正常	0	10	10	1	無動作
8	ON	正常	0	10	10	1	無動作

監視先状態

No.	監視先1		監視先2		監視先3		監視先4	
	状態	無応答数	状態	無応答数	状態	無応答数	状態	無応答数
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								

PING応答時間

No.	監視先1	監視先2	監視先3	監視先4
	応答時間	応答時間	応答時間	応答時間
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

機器情報	
POPサーバー接続障害回数	0

① アウトレット監視状態／判定条件

電源　：　電源の状態を表示します。

死活判定　：　PING 監視および POP サーバ監視の判定結果を表示します。
　正常：異常な監視先が対象数未満、かつ POP サーバ正常。
　異常：異常な監視先が対象数以上、あるいは POP サーバ異常。
　回復中：動作後、異常な監視先が対象数未満だが、異常な監視先が残っている。POP サーバは正常。

温度判定　：　温度監視の判断結果を表示します。

実行数　：　PING 監視と POP サーバ監視の実行された動作の回数を表示します。

現在温度　：　温度監視の現在温度を表示します。

送信数　：　PING 監視の PING 送信回数設定値を表示します。

動作設定　：　温度監視の動作設定を表示します。

無応答　：　PING 監視の無応答回数設定値を表示します。

警報温度　：　温度監視の警報温度を表示します。

対象数　：　PING 監視の対象数設定値を表示します。

注意温度　：　温度監視の注意温度を表示します。

動作　：　PING 監視と POP サーバ監視の動作を表示します。

Hys 温度　：　温度監視のヒステリシス温度を表示します。

② 監視先状態

状態　：　アウトレット毎に各監視先の応答状態を表示します。

無応答数　：　ICMP エコー要求送信に対する無応答回数を表示します。

③ ＰＩＮG応答時間

応答時間　：　監視先の応答時間を表示します。

④ 機器情報

ＰＯＰサーバ接続障害回数　：　ＰＯＰサーバへの接続障害回数を表示します。

3-3　電力計測表示

現在の本装置の監視状態を表示します。

1）「電力計測表示」をクリックします。

電力計測表示画面

電力計測表示　更新

電流監視状態／電流判定条件

No.	電源	状態	電流(A)	制御状態	警報値(A)	注意値(A)	Hys値(A)	動作
1	ON	正常	0.0	通常動作中	7	5	2	無動作
2	ON	正常	0.0	通常動作中	7	5	2	無動作
3	ON	正常	0.0	通常動作中	7	5	2	無動作
4	ON	正常	0.0	通常動作中	7	5	2	無動作
5	ON	正常	0.0	通常動作中	7	5	2	無動作
6	ON	正常	0.0	通常動作中	7	5	2	無動作
7	ON	正常	0.0	通常動作中	7	5	2	無動作
8	ON	正常	0.0	通常動作中	7	5	2	無動作

電力状態

No.	電流値(A)	有効電力(W)	皮相電力(VA)	有効電力量(kWh)	皮相電力量(kVAh)	CO2排出量(kg)	力率
1	0.0	0.0	0.0	1500.000	1500.000	486000.000	1.000
2	0.0	0.0	0.0	1500.000	1500.000	486000.000	1.000
3	0.0	0.0	0.0	1500.000	1500.000	486000.000	1.000
4	0.0	0.0	0.0	1500.000	1500.000	486000.000	1.000
5	0.0	0.0	0.0	1500.000	1500.000	486000.000	1.000
6	0.0	0.0	0.0	1500.000	1500.000	486000.000	1.000
7	0.0	0.0	0.0	1500.000	1500.000	486000.000	1.000
8	0.0	0.0	0.0	1500.000	1500.000	486000.000	1.000

電力測定状態

No.	アウトレット名称	開始時間	経過時間	測定DATA
1	Outlet1	2048/50/48 49:49	234941:24	CLR
2	Outlet2	2048/50/48 49:49	234941:24	CLR
3	Outlet3	2048/50/48 49:49	234941:24	CLR
4	Outlet4	2048/50/48 49:49	234941:24	CLR
5	Outlet5	2048/50/48 49:49	234941:24	CLR
6	Outlet6	2048/50/48 49:49	234941:24	CLR
7	Outlet7	2048/50/48 49:49	234941:24	CLR
8	Outlet8	2048/50/48 49:49	234941:24	CLR

全体情報	
電圧値(V)	100.2
周波数(Hz)	50
CO2排出係数(kg-CO2/kWh)	0.324
電流状態	正常
合計電流(A)	0.0
警報電流(A)	7
注意電流(A)	5
Hys値(A)	2

戻る

① 電流監視状態／電流判定条件

No	：	アウトレット番号
電源	：	各アウトレットの電力供給の状態を表示します。
状態	：	各アウトレットの状態判定結果を表示します。（正常/異常/警報）
電流	：	各アウトレットの電流値を表示します。
制御状態	：	各アウトレットの制御状態を表示します。（通常動作中/制御中）
警報値	：	各アウトレットの警報値を表示します。
注意値	：	各アウトレットの注意値を表示します。
Hys 値	：	各アウトレットの Hys 値を表示します。
動作	：	警報と判定された場合の動作内容を表示します。

② 電力状態

No	：	アウトレット番号
電流値（A）	：	各アウトレットの電流値を表示します。
有効電力（W）	：	各アウトレットの有効電力を表示表示します。
皮相電力（VA）	：	各アウトレットの皮相電力を表示します。
有効電力量（kWh）	：	各アウトレットの有効電力量を表示します。
皮相電力量（kVAh）	：	各アウトレットの皮相電力量を表示します。
CO2 排出量（kg）	：	各アウトレットの CO2 排出量を表示します。
力率	：	各アウトレットの力率を表示します。

③ 電力測定状態

No	：	アウトレット番号
アウトレット名称	：	各アウトレット名称を表示します。
開始時間	：	電力測定開始時刻を表示します。
経過時間	：	電力測定経過時間を表示します。
CLR	：	経過時間をリセットします。

④ 全体情報

電圧値（V）	：	電圧値を表示します。
周波数(Hz)	：	周波数を表示します。
CO2 排出係数（kg-CO2/kWh）	：	CO2 排出係数を表示します。
電流状態	：	電流状態を表示（正常/異常/警報）します。
合計電流（A）	：	合計電流を表示します。
警報電流（A）	：	警報電流を表示します。
注意電流（A）	：	注意電流を表示します。
Hys 値（A）	：	Hys 値を表示します。

3-4　イベントログ表示

現在までのイベントログ、温度センサーログを表示します。

3-4-1　イベントログ

1)「イベントログ表示」をクリックします。

イベントログ表示画面

2)「 更新 」を押すと最新状態に更新します。

前ページ　：　前ページを表示します。
次ページ　：　次ページを表示します。
先頭ページ　：　先頭ページを表示します。
最終ページ　：　最終ページを表示します。
全ログクリア　：　ログを消去します。

> **注意**　1 ページは 100 項目単位で表示します。最大 10 ページ、1000 項目のログを表示可能です。

3-4-2　温度センサーログ

1）「温度センサーログ」をクリックします。

温度センサーログ画面

最終記録時間
　最終の 20 ポイントの時間、温度、グラフ表示します。
　最高、最低の温度及び時間を表示します。

指定温度
　温度センサーの指定温度を表示します。

温度ログクリア
　表示されている温度をクリアします。

注意	「基本設定」で温度センサーを有効時に表示されます。

４．電源制御

本装置に接続されたデバイスの電源制御をします。

4-1　電源制御

1)「電源制御」をクリックします。

電源制御画面

①　電源
現在の電源の状態を表します。
（更新されないと最新の状態が表示されません。）

②　個別アウトレット制御の動作
電源ＯＮ　　　　：　電源出力を開始します。
電源ＯＦＦ　　　：　電源出力を停止します。
リブート　　　　：　電源出力をＯＦＦ／ＯＮします。

③　全アウトレット制御の動作
電源ＯＮ　　　　：　全アウトレットの電源出力を開始します。
電源ＯＦＦ　　　：　全アウトレットの電源出力を停止します。
リブート　　　　：　全アウトレットの電源出力をＯＦＦ／ＯＮします。

2)　「更新」をクリックすると最新の電源状態を取得します。

4-2　接点制御

1)「接点制御」をクリックします。

接点制御画面

接点出力情報

① 名称
各接点出力の名称を表します。

② 接点制御の動作

接点ＯＮ　　　　　：　接点出力を開始します。

接点ＯＦＦ　　　　：　接点出力を停止します。

③ 連動
連動している条件を表します。
（接点状態が反転している場合は「R」が表示されます。）

④ 接点
現在の接点の状態を表します。
（更新されないと最新の状態が表示されません。）

⑤ 接点出力連動設定
接点出力連動の有り無しを表します。

接点入力情報

① 名称
各接点入力の名称を表します。

④ 接点
現在の接点の状態を表します。
（更新されないと最新の状態が表示されません。）

2)　「更新」をクリックすると最新の接点状態を取得します。

4-3　仮想アウトレット制御

1)「仮想アウトレット制御」をクリックします。

仮想アウトレット制御画面

仮想アウトレット

仮想アウトレットとは、実際には存在しないアウトレットであり、関連付けされたMACアドレスのマジックパケットを送出して、WakeOnLAN 機能を実現させるためのものです。

①　個別仮想アウトレット制御の動作

電源ＯＮ　　　：　マジックパケットを送出します。

② 全仮想アウトレット制御の動作

電源ＯＮ　　　：　全仮想アウトレットへマジックパケットを送出します。

4-4　一斉電源制御

1)「一斉電源制御」をクリックします。

一斉電源制御画面

一斉電源制御

一斉電源制御とは、複数の本装置を最大８グループ分けて、各グループ単位で一斉制御コマンドを送り、電源を制御することが出来ます。

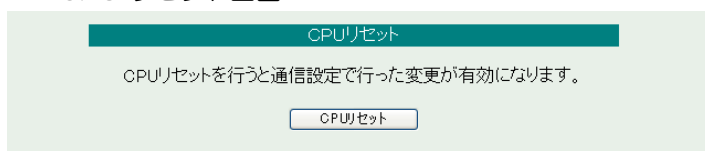
制御対象	：	制御するグループを選択します。
動作	：	実行する動作 電源ON　電源OFF　リブート
送信	：	一斉制御コマンドを送信します。

注意	「更新」をクリックしないと画面表示とアウトレットが違う場合がありますので電源状態は「更新」をクリックして最新の状態を確認してください。 全アウトレットONの時、個別アウトレットは１秒の間隔でONします。（遅延時間、デフォルト） リブートのOFF時間は１０秒です。（デフォルト） 遅延時間、OFF時間及びOFF禁止などの設定は変数の変更により可能です。

５．ＣＰＵリセット

本装置の設定変更を有効にします。

1）「CPU リセット」をクリックします。

CPU リセット画面

2）CPU リセット画面の「CPU リセット」をクリックします。

注意	CPU リセットを必要とする内容の場合、「設定項目」の「CPU リセット」の背景色が黄色になります。 「CPU リセット」をクリックすると設定した内容が有効になり、通信が切断されますが、アウトレットの状態は現状のまま保持されます。

第５章
その他の設定

１．ＴＥＬＮＥＴによる設定

1）ＲＰＣサーチソフトで検索した機器を選択し､「ＴＥＬＮＥＴ接続」ボタンをクリックする。または「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます｡「初期設定」で設定したＩＰアドレスを以下のように指定し、本装置にアクセスします。

192.168.10.1 の場合
ＩＰアドレス　　　　　　　　　：192.168.10.1
TELNET ポート番号　　　　　　：　23

「telnet＿192.168.10.1＿23」
※アンダーバーはスペースを表します。

2）プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220　RSC-MT8FP　(Noname) server ready
```

3）任意のキーを入力します。パスワードが要求されます。

4）パスワード（デフォルト：magic）を入力し、＜Enter＞キーで実行します。
「OK」の応答があります。

注意　ブラウザ接続時のパスワードとＴＥＮＬＥＴ接続時のパスワードは別になります。ＴＥＮＬＥＴ接続時とシリアル接続時のパスワードは共通になります。ＰＡＳＳコマンドで変更してください。デフォルトのままですとセキュリティホールになる危険があります。

1-1　ＴＥＬＮＥＴコマンドによる設定

1）ＲＰＣサーチソフトを起動し、「検索」ボタンをクリック検索した機器を選択し、「ＴＥＬＮＥＴ接続」ボタンをクリックする。または「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したＩＰアドレスを指定し、TELNET で本装置にログインします。

2）設定します。コマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。
（ＩＰアドレスなど一部の設定は CPU リセット後に反映されます。）

■　TELNET 通信の設定関係コマンド

コマンド	内　容
LIST	全ての変数の値を表示します。
WRITE	変数の設定を FROM に書き込みます。
&SAVE	設定された変数の待避・復元ができるデータを出力します。
LOAD_BEGIN	設定データの読み込みを始めます。
LOAD_END	設定データの読み込みを終了します。
?変数名	変数の値を表示します。
.変数名＝値	変数を設定し、設定された変数を表示します。
CPURESET	CPU をリセットします。（電源状態は変化しません。）

※変数については「■変数一覧表」参照

■　「&SAVE」コマンドについて

環境（変数全体）を一括して待避・復元するためのコマンドです。
「&SAVE」を実行すると、最初に「LOAD_BEGIN」、それに続いて一連の変数設定コマンド、最後に「LOAD_END」をテキストデータとして出力します。このテキストデータを設定データとして保存し、のちに送信しますと、保存した設定になります。ＴＥＬＮＥＴ用のパスワードなど、いくつかの変数は保存されませんのでご注意ください。設定データをテキストエディタで変更して利用することもできます。なお、「&SAVE」には、エコーバックがありません。変数設定コマンドでは、エラーがあっても無くても表示しません。長いコマンドは分割されます。（最後にハイフンがあると、次に継続することを意味します。）ファイルからのコマンドを実行するときは、「promptMode」を０または１とします。

■　プロンプトやコマンドについて

TELNET からアクセスしたときは、コマンド入力のプロンプトが表示されます。プロンプト表示の有無または表示形式は、コマンドで指定します。制御ユーティリティでは、常に「 > 」のプロンプトが表示されます。また、「?」だけのコマンドにより、ヘルプとしてコマンドの一覧を表示します。どのコマンドでも最初に「&」をつけることによりエコーバックが無くなります。設定の取得、書き込みのときは、「promptMode」を 0 または 1 とします。

変数名	：	promptMode
値	：	0（プロンプト表示無し）
	：	１（「 > 」のプロンプト表示 ）
	：	２（「 機器名 > 」のプロンプト表示 ）

■　ＳＳＨ通信からの設定について

ＴＥＬＮＥＴと同じようにＳＳＨ通信からも設定を行うことができます。

２．ターミナルソフトによる設定

1)本体前面のＣＯＭポートと設定用 PC のＣＯＭ.1 ポートをパソコン用クロスケーブル（Ｄｓｕｂ９ピンメス）で接続します。

2）ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

通信速度	：	38400bps
データビット	：	８ビット
ストップビット	：	１ビット
パリティ	：	なし

3）任意のキーを入力します。パスワードが要求されます。

4）パスワード（デフォルト：magic）を入力し、＜Enter＞キーで実行します。「OK」の応答があります。

5）設定します。
コマンドや変数などを入力し＜Enter＞キーで実行します。

6）設定内容を有効化します。
「write」コマンドを入力し、＜Enter＞キーを押します。

注意　設定変更後は、必ず「write」コマンドを実行してください。コマンドがないと設定が反映されません。また項目により CPU リセット後に設定が反映されます。
設定は「CPURESET」コマンドまたは本体 RESET ボタン押下後に反映されます。

7）設定終了後、ターミナルソフトを閉じます。

シリアル通信のコマンドは TELNET と共通です。ただし PASS コマンドはご利用いただけません。

第６章
その他の制御

１．ＴＥＬＮＥＴ接続による制御

本装置は TELNET サーバプログラムへ接続して、遠隔から電源制御および状態取得ができます。セキュリティ制御の設定がされている場合はその制限内での操作となります。（SSH 通信でも同じことが行えます。）

1-1　TELNET 接続による制御

1）ＲＰＣサーチソフトで検索した機器を選択し、「ＴＥＬＮＥＴ接続」ボタンをクリックする。または「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。「初期設定」で設定したＩＰアドレスを以下のように指定し、TELNET で本装置にログインします。

192.168.10.1 の場合
　ＩＰアドレス　　　　　　　　：192.168.10.1
　TELNET ポート番号　　　　　：　23

「telnet＿192.168.10.1＿23」
　　※アンダーバーはスペースを表します。

2）プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220　　RSC-MT8FP　（Noname） server ready
```

3）任意のキーを入力します。パスワードが要求されます。

4）パスワード（デフォルト：magic）を入力し、＜Enter＞キーで実行します。
「OK」の応答があります。

5）制御コマンドを入力して、< Enter >キーで実行します。

注意	ＴＥＬＮＥＴによりログイン中にも、他のＴＥＬＮＥＴからログインすることができます。ＬＯＧコマンドで履歴を確認するなどして操作が重ならないようご注意ください。

制御コマンド一覧表

制御コマンド	内　容
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リブート）
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始　ｎ＝１～８
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止　ｎ＝1～8
PORn	指定されたアウトレットのリブート（電源リブート）ｎ＝１～８
PSRn	指定されたアウトレットの電源状態反転　ｎ＝１～８
ＭＰＯＮＶ	全仮想アウトレットにマジックパケットを送信する。
ＰＯＮＶｘ	（xは1～8）　debWakeupInterval 後にマジックパケットを送信する。
OLSn	死活監視状態の表示　ｎ＝１～８ 　ｎを省略すると全てのアウトレットを表示します。 コンマ区切りで表示。 Outlet No.　アウトレット番号[１～8] Power　電源状態[０：Off　１： On] Judge　判定[1：正常　２：異常　３：回復中] Action Count　Action 実行回数 Last Ping1　アドレス１の最後の応答[1：正常　２：異常] NoEchoCount1　アドレス１の未応答回数 NoEchoTime1　アドレス１の応答時間（ms） [０：未設定　１：応答時間　9999：未応答] Last Ping2　アドレス２の最後の応答[1：正常　２：異常] NoEchoCount2　アドレス２の未応答回数 NoEchoTime2　アドレス２の応答時間（ms） [０：未設定　１：応答時間　9999：未応答] Last Ping3　アドレス３の最後の応答[1：正常　２：異常] NoEchoCount3　アドレス３の未応答回数 NoEchoTime3　アドレス３の応答時間（ms） [０：未設定　１：応答時間　9999：未応答] Last Ping4　アドレス４の最後の応答[1：正常　２：異常] NoEchoCount4　アドレス４の未応答回数 NoEchoTime4　アドレス４の応答時間（ms） [０：未設定　１：応答時間　9999：未応答]
VER	バージョンの表示
POS	全アウトレットの電源状態取得 応答：mmmm 　左側からアウトレット１～８ 　m＝０：OFF　１：ON

XPOS	全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答：ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX、 ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX 左側からアウトレット１～8 A=0：OFF　1：ON B=0：OFF 遅延中　1：ON 遅延中 XXXX=B のタイマ残り時間
PASS	パスワードの変更　新しいパスワードを２回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。
TELNET	変数「IpAdTelnetT」のアドレス、変数「remoteTelnetPortT」のポートに TELNET クライアントとして接続します。 DiscChar に設定した文字を入力すると切断終了する。 一度に受信するデータは、概ね40K バイト以下でご利用ください。
DATE	年月日設定 例）DATE yy/mm/dd　yy：年　mm：月　dd：日
TIME	現在時刻設定（秒は省略可） 例）TIME hh:mm:ss　hh：時　mm：分　ss：秒
PING	ＩCMPを4回送信します。 例）PING [IP アドレス]
IPCONFIG	ＬＡＮの通信設定を表示します。（例） IpAddress　192.168.10.1 SubnetMask　255.255.255.0 DefaultGateway　192.168.10.254 EhternetSpeed　100.0Mbps
CPURESET	CPU をリセットします。 コマンドを実行しても電源状態は変化しません。
PROMPT=n	0（プロンプト表示無し） 1（「 > 」のプロンプト表示 ） 2（「 機器名 > 」のプロンプト表示 ） *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。
EXIT	回線切断　最初の文字が E, e, Q, q の場合は EXIT と認識します。
SON1	接点出力を短絡
SOF1	接点出力を開放
SSO1	接点出力の状態を取得 例）SSO1　短絡接点出力時：SHORTEN NV_OUT #1：OPENED　開放接点出力時：OPENED
SSＩ1	接点入力の状態を取得 例）SSＩ1　短絡接点入力時：SHORTEN NV_IN #1：OPENED　開放接点入力時：OPENED

※「XPOS」「VER」「PASS」などいくつかのコマンドはログイン時のみ有効です。

応答コマンド

正常受付	：	Command OK
不正なコマンド	：	Unrecognized command
前コマンドの処理中のためコマンド実行せず	：	Last command is pending. Command failed.

２．シリアルからの制御

シリアルポートからコマンド入力で電源制御ができます。

1）本体前面の COM ポートと設定用 PC のＣＯＭポートをパソコン用クロスケーブル（Ｄｓｕｂ９ピンメス）専用ケーブルで接続します。

2）ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

通信速度	：	38400bps
データビット	：	８ビット
ストップビット	：	１ビット
パリティ	：	なし

3）任意のキーを入力します。パスワードが要求されます。

4）パスワード（デフォルト：magic）を入力し、＜Enter＞キーで実行します。「OK」の応答があります。

5）制御コマンドを入力し＜Enter＞キーで実行します。コマンドは「1.TELNET 接続による制御」と共通です。
※詳しくは「■　制御コマンド一覧表」参照

３．モデムからの制御

モデム経由で電源制御ができます。

1）本装置 COM ポートを接続するモデムに合わせて設定します。

2）本体前面の COM ポートとモデムをストレートケーブルで接続します。

3）遠隔地のモデムから接続します。

4）接続されるとパスワードが要求されます。

5）パスワード（デフォルト：magic）を入力します。コマンド入力状態になります。

6）制御コマンドを入力し、＜Enter＞キーで実行します。コマンドは「1.TELNET 接続による制御」と共通です。
※詳しくは「■　制御コマンド一覧表」参照

注意	モデム制御ではストレートケーブルモデムが必要です。（付属品はクロスケーブルです。）

４．メールからの制御

メールを利用して電源制御ができます。
　メールからのコマンドを利用するには、通信設定ならびにメール設定を正しく行う必要があります。メールからのコマンドには、ログイン方式とパスワード方式があります。また、メール制御許可アドレスが通知先アドレスのみの場合は、通知先として登録したメールアドレスからの制御のみが有効となります。

ログイン方式
　１．本装置にメールを送信します。
　　　（ア）件名（タイトル）は特に必要ありません。
　　　（イ）本文１行目に「login」と入力します。
　２．数分後、本装置からメールが届きます。
　　　（ア）ログインのための数値が知らされます。
　３．再び、本装置にメールを送信します。
　　　（ア）件名（タイトル）は特に必要ありません。
　　　（イ）本文１行目に、ログインのための数値を記入します。
　　　（ウ）本文２行目以降にコマンドを記入します。
　　　　①コマンドを記入し改行を入れます。
　　　　②コマンドの「ＬＩＳＴ」と「＆ＳＡＶＥ」は使えません。
　　　　③「QUIT」コマンドでログアウトします。「Q」または「E」の１文字だけでもログアウトします。
　　　　④自動ログアウト時間を経過するとログアウトします。
　４．数分後、本装置から結果を知らせるメールが届きます。
　５．ログイン中でも他のメールからのログインを受付ます。

パスワード方式
　１．本装置にメールを送信します。
　　　（ア）件名（タイトル）は特に必要ありません。
　　　（イ）本文１行目にパスワードを入力します。
　　　（ウ）メールパスワードはＷｅｂブラウザの「メール設定」（39 ページ）の「メール制御パスワード」で設定してください。
　　　　本文２行目以降にコマンドを入力します。
　　　　①コマンドを記入し改行を入れます。
　　　　②コマンドの「ＬＩＳＴ」と「＆ＳＡＶＥ」は使えません。
　　　　③「QUIT」コマンドでログアウトします。「Q」または「E」の１文字だけでもログアウトします。
　２．数分後、本装置から結果を知らせるメールが届きます。

５．ＷＥＢコマンドからの制御

WEB からダイレクトコマンドで電源制御ができます。

WEB コマンドでの制御方法

WEB コマンドは主に電源制御のためのコマンドであり、設定の変更は出来ません。
cmd.htm の後に下記のフォーマットで記入します。

?userid=[ユーザーID] &password=[パスワード] &command= [利用コマンド]

例:）ユーザーID amdin / パスワード magic / コマンド por3
http://192.168.10.1/cmd.htm?userid=admin&password=magic&command=por3

変数名を省略も可能です。

?userid ＞?i &password >?p&command ＞?c
http://192.168.10.1/cmd.htm?i=admin&p=magic&c=por3

利用可能コマンド

利用可能ユーザーLv[ident control admin]

VER
POS
XPOS
OLS
OLSn
TEMP
TOS
TOSn
TSP

利用可能ユーザーLv[control admin]

PONn
POFn
PORn
MPON
MPOF
MPOR
PSRn

第７章
ロギング機能

1．ロギング機能の設定・表示

デバイスの監視やその他のイベントログを1000件記録します。1000件を超えた場合は古いログから消去し、新しいログを記録します。記録されたログは、コマンドで表示・確認できます。

1）TELNETによる設定と表示

記録モード・表示モードの設定及び記録されたログの表示は、それぞれのコマンドを入力し＜Enter＞キーで実行します。ログインして制御する方法で操作します。

① 記録モードの変数名とコマンド

変数名　：　logMode
コマンド　：　.logMode

② 表示モードの変数名とコマンド

変数名　：　logDisp
コマンド　：　.logDisp

③ 接続中の表示のみを変更するコマンド
（通信が終了すると「logDisp」の値に戻ります。）

コマンド　：　LOGDISP

■ ログ制御変数のビット構成
値は最下位を0ビットとし、31ビットの構成になっています。

0：無、1：有

ビット		ビット	
30	未使用	14	モデム接続・切断
29	未使用	13	TELNETログイン・ログアウト
28	接点出力状態変化	12	TELNET接続・切断
27	接点入力状態変化	11	Webログイン・ログアウト
26	未使用	10	Web接続
25	スクリプト実行/失敗	9	メールログイン・ログアウト
24	未使用	8	メール不正アクセス
23	SSHサーバ接続/切断	7	ユーティリティログイン・ログアウト
22	未使用	6	ユーティリティ接続・切断
21	NTPアクセス	5	電源障害等
20	シリアルログイン・ログアウト	4	電源制御コマンド
19	未使用	3	未使用
18	温度状態変化	2	ping監視によるイベント
17	変数設定、write	1	ping無応答
16	PPPoE関連	0	ping送信
15	モデムログイン・ログアウト		

TELNET 通信による設定例

・ping 監視によるイベント、電源制御コマンド、電源障害のログを記録する場合
.logMode=00000000000000000000000110100

・全て表示する場合
.logDisp=11111111111111111111111111111（デフォルト）

・接続中に「変数設定」だけ表示とする場合
変数を変更せずにＬＯＧＤＩＳＰコマンドで表示を変更できます。
LOGDISP=00000000000010000000000000000

■ ログ表示コマンド

コマンド	内　　容
LOG	ログの表示（連番号順）
LOG n	ログの表示（最新ｎ個）
LOGTIME	e = t　　　ログ開始からの経過秒＝現在時刻 e0 = t0　 NTP 接続までの経過秒＝最初の取得時刻 NTP 無効の場合はｅのみ表示
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット

ログの表示数は 20 項目です。
<Enter>キーで続きの 20 項目を表示します。

■ ログの表示形式

nnn　ttt　a　b　xxxxxxxx　c

nnn	：	連番号
ttt	：	NTP 無効時：記録開始からの時間（秒）
yy.mm.dd　hh:mm:ss	：	NTP 有効時：年月日時分秒
a	：	アウトレット番号
b	：	PING 送信先番号（１～８番）
xxxxxxxx	：	イベント
c	：	ＩＰアドレス

■　記録ログ一覧表

監視設定に基づくイベント（記録・表示のモード設定があります。）	
Ping	ping 送信
No Echo	ping 無応答
監視設定（Action）に基づくイベント	
No Action	処理なし
Outlet Reboot	電源リブート
Outlet On	電源 ON
Outlet Off	電源 OFF
スケジュールの場合は、「by Schedule」、と表示されます。	
電源制御によるイベント	
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リブート）
PON	指定されたアウトレットの電源出力開始
POF	指定されたアウトレットの電源出力停止
POR	指定されたアウトレットのリブート（電源リブート）
アクセスによるイベント（接続先ＩＤが表示されます。）	
--> Uty	ユーティリティ接続
==> Uty	ユーティリティログイン
<== Uty	ユーティリティログアウト（切断）
<-- Uty	ログインしないで切断
WEB,MAIL,TELNET の接続、ログインなどもこれに準じます	
NTPServerAccessError	NTP サーバ接続エラー。３回続けて失敗した場合。
NTP　---　hh:mm:ss	NTP サーバ接続
SSHServerConnected	SSH サーバ接続
mode に関係のない表示	
Mail　Error	メール送信エラー

第８章
PPPoE の使用

１．ＰＰＥｏＥについて

本装置は PPPoE を搭載しています。通信事業者の PPPoE サーバに対する、PPPoE クライアントとして、ご利用いただけます。

２．設定について

PPPoE 機能をご利用いただくために、以下の変数をご用意しています。
変数の変更は、コマンドから行います。
また、◎の変数は設定ユーティリティのメニューから設定を行えます。

◎pppMode	1:常時接続モード 0:コマンド接続モード（初期値 0）
◎pppUserId	ユーザーＩＤ
◎pppPassword	パスワード
pppMyMru	自局側 MRU（初期値 1454）
pppNoReplyInterval	無応答判定時間（秒、初期値 2）
pppConnectInterval	常時接続リトライ間隔（秒、初期値 30）
pppReconnectInterval	自動再接続間隔(秒,初期値 5：フレッツ仕様では 5 以上）
pppLcpEchoInterval	LCP のエコー送信間隔（秒、初期値 30）
pppLcpEchoCount	LCP リンク解放までの無応答回数（初期値 10）
pppIcmpEchoInterval	ICMP のエコー送信間隔（秒、初期値 0）
pppIcmpEchoCount	IP リンク解放までの無応答回数（初期値 5）
pppLogMode	1:接続・解放等のログを記録 0:記録しない（初期値 1）

３．制御について

PPPoE 機能をご利用いただくために、以下のコマンドをご用意しています。

PPPCONN	接続動作を開始 pppUserId と pppPassword が設定されていて、かつ初期状態なら動作を開始し Command OK と表示する。そうでなければ Command failed と表示する。
PPPDISC	切断動作を開始 常に Command OK と表示する。初期状態なら何もしない。
PPPSTAT	状態表示 常時接続モードでも、コマンドを使用できる。

４．動作について

PPPoE 機能ご利用時の動作を説明します。

常時接続モード（pppMode＝1）

・立ち上げ時に pppUserId と pppPassword が設定されていれば、自動的に接続動作を開始します。接続が不成功なら pppConnectInterval の間隔でリトライを続けます。
・接続後、通信中に切断された場合は、pppReconnectInterval 後に接続をリトライします。
・PPPDISC コマンドで切断した場合は、PPPCONN コマンドを実行しない限り接続動作は開始しません。この PPPCONN コマンドによる接続が不成功でも、リトライはしません。

リセット時の動作

・接続時に CPU リセット（ウォームスタート）を行うと、自動的に切断します。常時接続モードであれば、その後あらためて接続動作を開始します。

DNS サーバアドレス取得

・IPCP 接続手順で取得したアドレスを変数 ipAdDnsServer に自動的に設定します。

状態表示

・PPPSTAT コマンドでは、フェーズ（p）とサブフェーズ（s）を、p-s として表示します。
例：タイムアウトとリトライを繰り返した後、初期フェーズに戻るが、状態表示は次のようになる。
PPPSTAT 0,1-1 これは 1-1 の状態で接続が不成功となり、初期フェーズになったことを示します。

・1-3 と 3-3 は、状態としては存在しません。PPPSTAT 0,のあとに続く表示としてだけ用いられます。例えば、PPPSTAT 0,3-3 となったら、認証失敗を示します。

・接続フェーズでは、等号に続けて IP アドレスも表示します。

各状態の説明

フェーズとサブフェーズの組み合わせで状態が決まります。

フェーズ

0: : 初期フェーズ
1 : Discovery フェーズ
2 : LCP フェーズ
3 : CHAP フェーズ
4 : IPCP フェーズ
5 : 接続フェーズ
6 : 切断フェーズ

サブフェーズ

各フェーズごとに定義されます。(初期フェーズと切断フェーズには存在しません)

Discovery フェーズ
0: : 初期
1 : PADI 送信、PADO 待ち
2 : PADR 送信、PADS 待ち
3 : PADS エラー
4 : リンク確立

LCP フェーズ、IPCP フェーズ
0 : 初期
4 : Closing
6 : Req-Sent　　Config-Req 送信、Config-Ack 待ち、Config-Req 待ち
7 : Ack-Rcvd　　Config-Req 送信、Config-Ack 受信、Config-Req 待ち
8 : Ack-Sent　　Config-Req 送信、Config-Req 受信、Config-Ack 送信、Config-Ack 待ち
9 : リンク確立

CHAP フェーズ
0 : 初期
1 : Challenge 待ち
2 : Result 待ち
3 : エラーResult
4 : OK

接続フェーズ
0 : 通常
1 : 障害
2 : 復旧中

無応答判定
無応答判定時間[変数 pppNoReplyInterval]は、以下の場合に適用します。
・PADI に対する PADO 待ち
・PADR に対する PADS 待ち
・LCP,ICPC で Config-Req に対する Config-Ack,Config-Nak 待ち
・LCP,ICPC で Config-Req 待ち
・LCP,ICPC で Term-Req に対する Term-Ack 待ち
・LCP で Echo-Req に対する Echo-Reply 待ち
・CHAP チャレンジ待ち
・CHAP リザルト待ち

接続中は、pppLcpEchoInterval の間隔で LCP エコー要求を送って、ノットレディでないか監視しています。pppNoReplyInterval 以内に応答が無いとその時点で再び送信します。無応答が pppLcpEchoCount の回数に達するとノットレディと見なします。
ノットレディと見なすと、接続手順を開始できるか（レディになったか）をチェックします。接続手順を開始できるようになったとき（具体的には PADI に PADO が返ってきたとき）、あらためて LCP エコー要求を送る。応答があれば、接続状態に戻ったと見なします。応答が無ければ、接続手順を開始し、再接続します。（ただし常時接続モードでなければ、再接続はしません）
接続中に、pppIcmpEchoInterval の間隔で ICMP エコー要求を送って、IP リンクが解放されていないか監視できます。無応答が pppIcmpEchoCount の回数に達すると、IP リンク解放と見なし、常時接続モードなら再接続を行います。初期値は pppIcmpEchoInterval が 0 ですので、ICMP エコー要求は送りません。
LCP エコーと ICMP エコーを除いては、リトライ回数は３になっています。

ログ記録
変数 logMode の 16 ビットが有効な場合は、以下のものがログに記録されます。

PPPoE Connect	接続した。IP アドレスも表示
PPPoE Disconnect	切断した
PPPoE Disconnected	切断された
PPPoE Modem Down	ノットレディになった
PPPoE Modem Up	レディになった
PPPoE Continue	接続状態に戻った
PPPoE IP Link Release	IP リンクが解放された

第９章
シャットダウンスクリプト

１．スクリプト仕様について

本装置はシャットダウンスクリプトを搭載しています。この機能により、接続された機器を正常に電源出力停止できます。

1-1　スクリプトの基本動作

① アウトレットが OFF 命令を受け、シャットダウン遅延中に動作します。OFF 命令はコマンド、温度監視、スケジュール、死活監視、電流監視、UPS 連携より出されます。
② 指定の IP アドレス、ポートに TELNET 接続または SSH 接続を行います。
③ 接続後、設定したスクリプトを実行します。
④ スクリプト実行後、以下の条件で電源を OFF します。
・PING 応答確認有りの場合：シャットダウン遅延時間中、数秒間隔で PING 監視を行い応答が無くなるか、またはシャットダウン遅延時間がタイムアップした時
・ PING 応答確認無しの場合：シャットダウン遅延時間がタイムアップした時
（スクリプトの終了コードにより電源 OFF 条件を定めることができます。）
⑤ SSH 接続は同時には 1 個だけ可能です。複数ある場合は、他の SSH 接続が終わってから接続することになるます。SSH サーバが接続している場合は、強制的に切断します。

1-2　設定

（2-1-2-1-1 シャットダウンスクリプト設定をご参照ください。ブラウザから設定できます。）
本機を TELNET 接続、シリアルポートからターミナルソフトにて下記の項目を設定してください。（アウトレット毎に以下の設定をします。）

IP アドレス	：	deb01ShutdownAddr
Port 番号	：	deb01ShutdownPort 0 を指定すると、TELNET なら 23、SSH なら 22 と見なします。
スクリプト番号	：	deb01ShutdownScript
スクリプトの有効／無効	：	deb01ShutdownEnabled
サーバ名（ＩＤ）	：	deb01ShutdownName
パスワード	：	deb01ShutdownPassword
PING 実行先	：	deb01ShutdownPingAddr PING でシャットダウン終了を確認すします、 IP アドレスまたはドメイン名を設定します。
PING 間隔	：	deb01ShutdownPingInterval
PING 回数	：	deb01ShutdownPingCount
PING 限度	：	deb01ShutdownPingMax
電源 OFF 条件		deb01ShutdownOffMax

1-3　ログ

① スクリプトの成功または失敗をログと変数に残します。
変数は deb01ShudownExit と deb01ShutdownMsg
この変数の値は保存されます。

1-4　エラー処理

①　接続できない時

シャットダウン遅延時間中、数秒間隔でリトライします。
接続できなければ、終了コード 254 で終了します。

②　切断された時

接続後に切断されたときは、終了コード 253 で終了します。

1-5　テキスト仕様

①　条件

- テキストサイズは、2Kbyte までです。
- テキスト行数は 250 行までです。
- テキストの第 1 行は、TELNET または SSH とします。
- 行の先頭やパラメータの区切りに任意個のタブや空白を入れてもかまいません。
- スクリプト関数は大文字でも小文字でも可能です。
- ２バイト文字にも対応しています。

②　スクリプト関数詳細

文字列	：　二重引用符”で囲みます。 CR コードは¥r、LF コードは¥n で表します。 また、1 個の¥は¥¥で、1 個の”は¥”で表します。 制御コード等は¥xnn で nn は２桁の 16 進数で表します。 （長さは最大 63 バイト）
timeout 時間	：　単位秒。スクリプトタイムアウト 最大 1023　（秒）（スクリプト例は 600 秒） 時間が来たら強制的にスクリプトを終了します。 （終了コードは 255）
delay 時間	：　単位 100 ミリ秒、一時停止、最大 1023
goto ラベル	：　指定ラベルに飛びます。
ラベル	：　ラベルは 1～99 行の残りにはコメントしか書くことはできません。
exit 終了コード	：　スクリプト終了　終了コードは 0～255。省略は 0 変数 deb01ShudownExit に設定されます。
send 文字列	：　文字列を送信する。
recv	：　データを受信バッファに受信する。
recv 時間 goto ラベル	：　データを受信バッファに受信します。（時間の単位は秒） 時間内に受信できなければラベルに飛びます。
recv 時間 exit 終了コード	：
if 文字列 goto ラベル	：　受信バッファに文字列があればラベルに飛びます。
if 文字列 exit 終了コード	：　受信バッファに文字列があれば終了します。
unless 文字列 goto ラベル	：　受信バッファに文字列が無ければラベルに飛びます。
unless 文字列 exit 終了コード	：
/	：　コメント 各文の終わりにも/を置いてコメントを書くことができます。
set 文字列	：　メッセージ変数 deb01ShutdownMsg に文字列を入れます。
sendname	：　サーバ名（ＩＤ）を CR コードつきで送信します。
sendpassword	：　パスワードを CR コードつきで送信します。

③　スクリプト例（Wiindows 用）

```
TELNET
//強制タイムアウト時間　600 秒
timeout 600
//ユーザーログイン、パスワード確認
1:
recv 10 exit 99
unless "login:" goto 1
sendname
2:
recv 10 exit 99
unless "password:" goto 2
sendpassword
3:
recv
unless ">" goto 3

//シャットダウンコマンド送信
send "shutdown /s¥r"
4:
recv
unless ">" goto 4
send "exit¥r"
exit
```

注意	シャットダウンされる側のパソコンは、TELNET または SSH サーバ機能が有効になっている必要があります。

④　スクリプト入力

SCRIPT コマンドで始めます。
SCRIPT 番号
番号は 1～8
ENDSCRIPT コマンドで終わります。
変数 script1～script8 に格納します。コメントや余分のタブ・空白は格納しません。
エラーがある場合は、エラーを表示し、格納しません。

1-6　PING 確認について

スクリプト実行が終了したなら、終了コードが何であってもPING 確認を実行します。
PING 確認では、PING 実行先が指定されていれば、指定間隔で PING を送信します。
PING 回数だけ連続して未応答なら、PING 確認を終了します。
PING 限度だけ送信したなら、PING 確認を終了します。
PING 実行先が指定されていなければ、すぐに PING 確認を終了します。
PING 確認を終了したなら、deb01ShutdownTime の遅延後にアウトレットの電源をオフします。

第１０章
無停電電源装置（UPS）との連携

１．本機と無停電電源装置（ＵＰＳ）の接続

本機とＵＰＳを以下の手順で接続します。
※UPS ご利用の際は、シリアル・モデム通信は使用できません。

1）ＵＰＳと本機とを専用通信ケーブルで接続します。
Windows 標準の UPS サービスを利用します。専用通信ケーブルについては、各ＵＰＳメーカーにご相談ください。

2）本体前面 DIP スイッチ.1 を ON（下）にします。

3）本機の電源コードをＵＰＳのＡＣアウトレットに接続します。

4）ＵＰＳの電源出力を開始します。

２．機器設定

（2-1-2-1-2　UPS 連動設定をご参照ください。ブラウザから設定できます）
本機を TELNET 接続、シリアルポートからターミナルソフトにて下記の項目を設定してください。「その他の制御」を参照してください。

① UPS 名称
変数　：　upsIdentName
全角 10 文字、半角英数字 20 文字以内

② UPS モニタ時間間隔（秒）
変数　：　upsMonitorInterval
デフォルト　：　10
（0～60、0 は 1 と見なす。）

③ UPS シャットダウン開始待機時間（秒）
変数　：　debMasterUpsAlarmWaitTime
デフォルト　：　120
（-1～300、-1 の場合はシャットダウン無効）

UPS から電源障害信号を受け取った後、設定された時間が経過すると、本機はシャットダウン処理を開始します。設定された時間内に電源障害回復を検知した場合には、通常状態に戻ります。

④　UPS シャットダウン有効化
変数　：　debMasterEnableUpsShut
デフォルト　：　2
（1:有効　2:無効）

⑤　給電状態
変数　：　upsOutputSource
デフォルト　：　1
0,1：未設定　3：正常　5：バックアップ

⑥　バッテリ状態
変数　：　upsBatteryStatus
デフォルト　：　1
0,1：未設定　2：正常　3：低電圧

⑦　UPS 論理
変数　：　upsSignalLevel
デフォルト　：　15

制御フラグ（4bit）			
④	③	②	①

0：負　1：正
①停電検知レベル　デフォルト：正
②ローバッテリ検知レベル　デフォルト：正
③未使用（1：固定）
④シャットダウン信号レベル　デフォルト：正

以下は設定例です。
例1）　①停電検知レベル　「正」　：　設定値：15
②ローバッテリ検知レベル　「正」　デフォルト
③未使用（1：固定）
④シャットダウン信号レベル　「正」

例2）　①停電検知レベル　「正」　：　設定値：13
②ローバッテリ検知レベル　「負」
③未使用（1：固定）
④シャットダウン信号レベル　「正」

第１１章
SNMP について

１．ＳＮＭＰについて

本装置はＳＮＭＰエージェント機能を装備しています。ＳＮＭＰマネージャーを利用して、ネットワークシステムの電源管理、電源制御を統合的に行うことができます。

２．機器設定

本装置を TELNET 接続にて下記の項目を設定してください。「その他の制御」を参照してください。

① SNMP の SET、GET 有効化

変数	：	snmpGetSetEnabled
デフォルト	：	0 （0：無効　1：有効）

② SNMP TRAP の有効化

変数	：	snmpTrapEnabled
デフォルト	：	0 （0：無効　1：有効）

③ SNMP 不正アクセス時の TRAP 通知

変数	：	snmpAuthenTrapEnabled
デフォルト	：	2 （1：有効　2：無効）

④ TRAP 送信回数

変数	：	snmpTrapSendN
デフォルト	：	1 （1～9）

⑤ TRAP 送信間隔（秒）

変数	：	snmpTrapSendInterval
デフォルト	：	1 （1～9）

⑥ TRAP 送信先アドレス

変数	：	snmpTrapAddr
デフォルト	：	0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0, 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0 （8 箇所）

⑦ SNMP 用フィルターの有効化

変数 ： snmpFilterEnabled

デフォルト ： 0

（0：無効　1：有効）

⑧ フィルター有効時許可するアドレス

変数 ： snmpFilterAddr

デフォルト ： 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
0.0.0.0,0.0.0.0

（10 箇所）

⑨ フィルター有効時の Mask

変数 ： snmpFilterEnabled

デフォルト ： 255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255

（10 箇所）

⑩ SNMP　GET コミュニティ名

変数 ： getCommunity

デフォルト ： Public

⑪ SNMP　SET コミュニティ名

変数 ： setCommunity

デフォルト ： Public

⑫ SNMP　TRAP コミュニティ名

変数 ： trapCommunity

デフォルト ： Public

３．ＭＩＢについて

本機を管理するためのプライベートＭＩＢを準備しています。
当社ホームページ（http://www.meikyo.co.jp）より MEIKYO.MIB をダウンロードし、ご利用ください。

プライベートＭＩＢファイルをＮＭＳにロード・コンパイルすることにより、本機の管理をＮＭＳ上で行うことができます。

注意	ＭＩＢのロード・コンパイル使用方法についての詳細は、ご利用されるＮＭＳのマニュアルを参照してください。

第１２章
ネットワーク稼動監視

１．機器設定

本装置から UDP のパケットを送出し、電源状態を通知することができます。「RPC -EYE ｖ3」（オプション　有償ソフトウェア）を利用すれば、各機器からのパケットを受信し一元管理することができます。

下記の変数を設定してください。（①～④は WEB 通信詳細画面により設定できます）

① 状態通知機能
　変数　：　msrpEnabled
　デフォルト　：　0
　（0：無効　1：有効）

RPC-ＥＹＥ　ｖ３ を使用するパソコンのアドレスを設定します。

② 送信先アドレス
　変数　：　ipAdCenter
　デフォルト　：　0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
　（3 箇所）

RPC-ＥＹＥ　ｖ３ を使用するパソコンのポート番号を設定します。

③ ポート番号
　変数　：　ｃenterPort
　デフォルト　：　5000

情報を通知する間隔を設定します。

④ 定期通知の送信間隔（秒）
　変数　：　centerSendTimer
　デフォルト　：　300

電源変化時は、定期通知間隔を待たず直ちに通知します。その時の通知回数を設定します。

⑤ 電源変化時の通知回数
　変数　：　ｃenterChangeSendCount
　デフォルト　：　3

電源変化時の通知の２回目以降の通知間隔を設定します。

⑥ 電源変化時の通知間隔（秒）
　変数　：　ｃenterChangeSendTimer
　デフォルト　：　10

２．ＲＰＣ－ＥＹＥ　ｖ３の利用

RPC－EYE v3 は、RPC シリーズからの送信情報を利用して、各拠点のネットワークの稼動状態をリアルタイムで監視するネットワーク稼動監視ソフトです。
以下の特長があります。

・死活監視　温度状態　電源状態の表示と監視
・アイコンによるビジュアルな状態表示
・リアルタイムに見れる詳細な情報ビューア
・温度状態のグラフによる表示
・受信情報のデータ保存(CSV 形式)
・状態変化時に E-MAIL 又は音による通知機能
・個別の機器への接続機能(HTML or TELNET)
・管理する機器は理論上 1000 台まで可能です。
・１本のソフトでＰＣ３台まで利用できます。

詳細、購入方法等は下記のアドレスで確認ください。
http://www.meikyo.co.jp/products/reye.html

設定前の確認
●設定用 PC と本装置を LAN で確実に接続してください。
●RPC -EYE　ｖ３を PC にインストールしてください。
RPC -EYE　ｖ３は Windows2000/XP/Vista 対応ソフトです。
RPC -EYE　ｖ３の設定、利用方法は、RPC -EYE　ｖ３説明書(PDF ファイル)をご覧下さい。

第１３章
仕様一覧

■　変数一覧表

変　数　名	初　期　値	内　容	備　考
ipAdEntAddr	192.168.10.1	IP アドレス	
ifPhysAddress	（機器毎）	MAC アドレス（ReadOnly）	
serialNo		未使用	
keyCode		キーコード:自動生成	
keyCheck	0	キーチェック	0:無効　1:有効
sysName	Noname	機器名称	全角 9 文字 半角英数字 19 文字以内
snmpGetSetEnabled	0	SNMP の SET、GET の有効化	0:無効　1:有効
snmpTrapEnabled	0	SNMP TRAP の有効化	0:無効　1:有効
snmpAuthenTrapEnabled	2	SNMP 不正アクセス時の TRAP 通知	1:有効　2:無効
snmpTrapSendN	1	TRAP 送信回数	1～9
snmpTrapSendInterval	1	TRAP 送信間隔(秒)	1～9
snmpTrapAddr		TRAP 送信先アドレス	"," 区切りで 8 箇所以内
snmpFilterEnabled	0	SNMP 用フィルタの有効化	0:無効　1:有効
snmpFilterAddr		フィルタ有効時許可するアドレス	"," 区切りで 10 箇所以内
snmpFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	フィルタ有効時の Mask	10 箇所
getCommunity	public	SNMP　GET コミュニティ名	
setCommunity	public	SNMP　SET コミュニティ名	
trapCommunity	public	SNMP　TRAP コミュニティ名	
sysDescr	文字列 1	（ReadOnly）	
sysContact	inforpc@meikyo.co.jp	連絡先	
sysLocation	Nowhere	設置場所	全角 31 文字 半角英数字 63 文字以内
ifDescr	文字列 2	（ReadOnly）	
ipAdEntNetMask	255.255.255.0	ネットマスク	
ipRouteDest		デフォルトゲートウェイ	
netBootpRetry	0	BOOTP リトライ回数	
netRarpRetry	0	RARP リトライ回数	
telnetEnabled	1	TELNET の有効化	0:無効　1:有効
telnetPort	23	TELNET のポート番号	
utilityPort	9000	UTY のポート番号	
loadPort	9100	ファームウェアローダーのポート番号	
fileLoadPort	9200	HTML ファイルをロードするポート	
httpEnabled	1	HTTP の有効化	0:無効　1:有効
httpPort	80	HTTP のポート番号	

httpRefreshInterval	30	HTTP 自動更新間隔(秒)	
httpRefreshEnabled	0	HTTP 自動更新の有効化	0:無効 1:有効
httpCommandEnabled	0	HTTP コマンドの有効化	0:無効 1:有効
dhcpEnabled	0	DHCP の有効化	0:無効 1:有効
ipFilterEnabled	0	IP フィルタの有効化	0:無効 1:有効
ipFilterAddr		IP フィルタアドレス	"," 区切りで 10 箇所以内
ipFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255 ,255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	IP フィルタマスク	10 箇所
model	RSC-MT8FP	モデル名(ReadOnly)	
com1Speed	3	シリアル通信速度	1:9600Bps 2:19200Bps 3:38400Bps
com1DataBits	8	シリアル通信ビット	7,8
com1StopBits	1	シリアル通信ストップビット	1,2
com1Parity	0	シリアル通信パリティ	0:無 1:奇 2:偶
version		バージョン表示(ReadOnly)	
debTcpInactiveTimer	10	TELNET 通信時の無通信タイマ(分)	
autoLogin	0	オートログインの有効化	0:無効 1:有効
userLoginTimeout	600	HTTP 自動ログアウト時間	
debMasterRebootTime	10	全アウトレットリブート時の OFF 時間(秒)	8～3600 の整数
debOlStartMode	3	電源投入時のアウトレット制御を指定	1: 電源断時の状態 2: 通常制御 3: スケジュール制御
debOlMaster	1,2,3,4,5,6,7,8	マスターのアウトレット番号	
debOlPowerOnTime	1,2,3,4,5,6,7,8	各アウトレットの ON 時間	-1～3600 の整数
debOlShutdownTime	0,0,0,0,0,0,0,0	各アウトレットの OFF 時間	-1～3600 の整数
debOlRebootTime	10,10,10,10, 10,10,10,10	各アウトレットの REBOOT 時間	8～3600 の整数
debOlWdogAddr		監視先 IP アドレス	"," 区切りで 8 箇所以内
debOlWdogSendMax	10,10,10,10, 10,10,10,10	PING 監視 送信回数	1～100 の整数
debOlWdogNoResMax	10,10,10,10, 10,10,10,10	PING 監視 無応答回数	1～100 の整数
debOlWdogActCond	1,1,1,1,1,1,1,1	PING 監視 監視対象数	1～4(整数)
debOlWdogAction	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 Action	0:noPing 1:noAction 2:Reboot 3:On 4:Off
debOlWdogActCount	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 Action 回数(ReadOnly)	
debOlWdogStatus	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視判断(ReadOnly)	0:未設定 1:正常 2:異常 3:回復中
debOlRebootCount	1,1,1,1,1,1,1,1	PING 監視 再 Reboot 回数	1～100
debOlRebootInterval	1,1,1,1,1,1,1,1	PING 監視 再 Reboot 間隔(分)	1～60

debOlActionLimit	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視　異常時の 1 時間ごとに繰り返すリブート回数	0:無制限
debOlPopErrorMax	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視　POP サーバーへの連続アクセス異常回数	0:機能無効
debOlWdogLastStatus	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視　最終応答(ReadOnly)	0:未設定　1:正常　2:異常
debOlWdogDefGateway	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視　デフォルトゲートウェイ	0:無効　1:有効
debOlNoResCount	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視　無応答回数(ReadOnly)	左→右　1→8 アウトレット
debOlRespTime	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視　IP アドレスからの応答時間(ms)	0:未設定　1:PING 応答の最小値
debOlActionMax	12	PING 監視　異常回数	
debOlNoEchoInterval	5	PING 監視　無応答検出時間(秒)	5～60 の整数
debOlPingInterval	1	PING 監視　送信間隔(分)	1～60 の整数
pingInterval2	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視　送信間隔個毎(分)	未設定時は上段値 O～60 の整数
debOlName	Outlet1,Outlet2, Outlet3,Outlet4, Outlet5,Outlet6, Outlet7,Outlet8	アウトレット名	全角 10 文字 半角英数字 20 文字以内
debOlNameV		仮想アウトレットの名称	全角 10 文字 半角英数字 20 文字以内
debOlPowerOnTimeV	0,0,0,0,0,0,0,0	仮想アウトレット用の ON 遅延時間	-1～3600 の整数
debOlShutdownAddr		シャットダウンスクリプトの IP アドレス	
debOlShutdownPort	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの Port 番号	
debOlShutdownScript	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトのスクリプト番号	
debOlShutdownEnabled	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの有効化	0:無効　1:有効
debOlShutdownName		シャットダウンスクリプトのサーバー名(ID)	
debOlShutdownPassword		シャットダウンスクリプトのパスワード	
debOlShutdownMsg		シャットダウンスクリプトの成功、失敗ログ	
debOlShutdownExit	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの成功、失敗変数	
debOlShutdownPingAddr		シャットダウンスクリプトの PING 実行先	
debOlShutdownPingInterval	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの PING 間隔	
debOlShutdownPingCount	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの PING 回数	
debOlShutdownPingMax	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプト PING 限度	
debOlShutdownDebug	0	シャットダウンスクリプトのエラー処理	0:無効　1:有効
debOlShutdownOffMax	255	シャットダウンスクリプトの電源 OFF 制限	
script1 script2		スクリプトの変数格納	

script3			
script4			
script5			
script6			
script7			
script8			
tempEnabled	1	温度監視の有効化	0：無効　1：有効
tempTestMode	0	温度テストモードの有効化	0：無効　1：有効
tempSimMode	0	温度シミュレーションモード	0：無効　1：有効
tempLowerA	−5	下限警報閾値	少数点以下は 0.25 の倍数となる。
tempLowerW	0	下限注意閾値	
tempLowerH	2	下限ヒステリシス	
tempLowerOff	1	低温アウトレット解除	0：無効　1：有効
tempUpperA	45	上限警報閾値	少数点以下は 0.25 の倍数となる。
tempUpperW	35	上限注意閾値	
tempUpperH	2	上限ヒステリシス	
tempUpperOff	1	高温アウトレット解除	0：無効　1：有効
tempOlControl	0,0,0,0,0,0,0,0	温度によるアウトレット動作	0：対象外　1：上限警報で動作 2：下限警報で動作
tempStatus	0	温度状態	0：正常　1：上限注意　2：上限警報 3：下限注意　 4：下限警報
tempActionStatus	0	温度による動作状態	0：正常（解除済）1：上限警報実行 2：下限警報実行
tempDegree		温度測定値（℃）	少数点第二位まで表示
tempMaxDegree		最高温度	
tempMinDegree		最低温度	
tempMaxDegreeTime		最高温度記録時間	
tempMinDegreeTime		最低温度記録時間	
tempLogNumber	20	温度ログの記録件数	
tempLogClock		温度ログの起動からの経過時間（秒）	
tempLogValue		温度ログの温度データ（数値表示用）	
tempLogGraphValue		温度ログの温度データ（グラフ表示用）	
tempLogTime		温度ログの取得日時	
schEnabled	0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールの有効化	0：無効　1：有効
schOl(n)1Sch(文字列) (n)：1〜8 (文字列)： Kind,Year,Month,Day,Nth, WeekDay,PatNo		スケジュールデータ（ReadOnly）	
schCalCurrentYear	2011	現在表示中のカレンダーの年	起動直後は現在の日付
schCalCurrentMonth	3	現在表示中のカレンダーの月	
schCalCurrentDay	10	現在表示中のカレンダーの日	
schRegNum	0,0,0,0,0,0,0,0	各アウトレットのスケジュール登録個数	
schEditCalYear	0	編集中のカレンダーの年	
schEditCalMonth	0	編集中のカレンダーの月	

schEditCalDay	0	編集中のカレンダーの日	
schUlTimeout	60	アップロードのタイムアウト時間(秒)	
schUlCrcEnabled	1	アップロードの CRC チェックの有効化	0:無効 1:有効
schDlCrcEnabled	1	ダウンロードの CRC チェックの有効化	0:無効 1:有効
ipAdDnsServer		DNS サーバアドレス	
mailUserName		メール ユーザー名	半角英数字 63 文字以内
mailPassword		メール パスワード	半角英数字 63 文字以内
mailCommandPassword		メール コマンドパスワード	半角英数字 63 文字以内
mailLastEvent		最新のイベント内容を保管	
mailContent	sysName, sysLocation, ipAdEntAddr, ifPhysAddress, mailLastEvent	通知メールの内容	
mailAddr		メールアドレス	
extMailAddr		送信先メールアドレス	8 個
mailInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 メール送信有効化	0:無効 1:有効
mailTempInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	温度監視 メール送信有効化	0:無効 1:有効
mailPppInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	接続確率メールの有効化	0:無効 1:有効
mailNvInInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	メール通知設定フラグ 接点入力	0:通知しない 1:通知する
mailNvOutInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	メール通知設定フラグ 接点出力	0:通知しない 1:通知する
mailOverInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	ログをメールで送信する設定 (送信数は、mailLogCount 値毎となる)	0:無効 1:有効
mailPowerInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0,0	メール通知設定フラグ ログ件数超過	0:通知しない 1:通知する
mailCommandEnabled	0	メールコマンドの有効化	0:無効 1:有効(ログイン) 2:有効(パスワード方式)
mailCommandAddrEnabled	1	メールコマンドアドレスの有効化	0:無効 1:有効
mailLogoutTime	10	メールログアウト時間(分)	1～60 の整数
mailCheckInterval	3	メールチェック間隔(分)	1～60 の整数
mailApopEnabled	0	APOP の有効化	0:無効 1:有効
mailSmtpAuthEnabled	0	SMTPAUTHの有効化	0:無効 1:有効
promptMode	2	TELNET プロンプトモード	0:無し 1:「＞」の表示 2:「機器名＞」の表示
modemEnabled	0	モデムの有効化	0:無効 1:有効
modemTimeout	10	モデムタイムアウト時間(分)	
logMode	011 1010 1011 0111 1111 1111 1111 0100	ログ記録モード(31 ビット)	0:無効 1:有効
logDisp	011 1010 1011 0111 1111 1111 1111 1111	ログ表示モード(31 ビット)	0:無効 1:有効
mailLogCount	0	メールで送信する更新されたログの数	0:無効 1～20:閾値
mailLogMode	011 1010 1011 0111 1111 1111 1111 1111	メールで送信するログモード(31 ビット)	0:無効 1:有効
ipAdNtpServer		NTP サーバの IP アドレス	

ntpInterval	6	NTP サーバへのアクセス間隔（×10 分）	
syslogEnabled	2	状態通知の有効化	0：無効　1：有効
syslogLogMode	011 1010 1011 0111 1111 1111 1111 1111	sysLog で送信するログモード（31 ビット）	0：無効　1：有効
ipAdCenter		MSRP/sysLog 送信先 IP アドレス（8 箇所）	
centerPort	5000,5000, 5000,5000,5000, 5000,5000,5000	MSRP/sysLog 送信先ポート番号	
terminalId	0	監視情報用 ID 番号	0～9999
centerSendTimer	300	監視情報送信間隔（秒）	
centerChangeSendTimer	10	状態変化時の送信間隔（×100 ミリ秒）	
centerChangeSendCount	3	状態変化時の送信回数	
ipAdTelnetT		TELNET からの TELNET 中継先アドレス	
ipAdTelnetU		UTY からの TELNET 中継アドレス	
remoteTelnetPortT	23	TELNET からの TELNET 中継先ポート	
remoteTelnetPortU	23	UTY からの TELNET 中継ポート	
discChar		中継中の通信切断キャラクタ	
beepEnabled	0	ブザー音の有効化	0：無効　1：有効
pppMode	0	PPPoE 常時接続モード	0：無効　1：有効
pppUserId		PPPoE ユーザーID	
pppPassword		PPPoE パスワード	
pppMyMru	1454	自局側 MRU	
pppNoReplyInterval	2	無応答判定時間（秒）	
pppConnectInterval	30	常時接続リトライ間隔（秒）	
pppReconnectInterval	5	自動再接続間隔（秒）	
pppLcpEchoInterval	30	LCP のエコー送信間隔（秒）	
pppLcpEchoCount	10	LCP のリンク解放までの無応答回数	
pppIcmpEchoInterval	0	ICMP のエコー送信間隔（秒）	
pppIcmpEchoCount	5	IP リンク解放までの無応答回数	
pppStat	0,0,0	PPPoE の状態（ReadOnly）	
pppAddress		PPPoE　IP アドレス	
pppConnTime	0:00:00	接続後の経過時間(秒)	0：無接続
ispName		ISP の名称	全角 31 文字 半角英数字 63 文字以内
upsIdentName		UPS 名称	
upsMonitorInterval	10	UPS モニタ時間間隔（秒）	0～60、0 は 1 と見なす。
debMasterUpsAlarmWaitTime	120	UPS シャットダウン開始待機時間（秒）	−1～300 −1 の場合はシャットダウン無効
upsSignalLevel	15	UPS 論理（4ビット）	
debMasterEnableUpsShut	2	UPS シャットダウン有効化	1:有効　2:無効
debOlShutdownSignal	2,2,2,2,2,2,2,2	PC の ER 信号との連携の有効化	1:有効　2:無効
upsOutputSource	1	給電状態	0, 1: 未設定　3: 正常 5: バックアップ
upsBatteryStatus	1	バッテリ状態	0, 1: 未設定　2: 正常　3: 低電圧
upsInputLineBads	0	商用入力異常回数	

debWakeupPhysAddr		WOL 設定	"," 区切りで 2 箇所以内
debWakeupMaxCount	2	マジックパケット送信回数	
debWakeupInterval	15	マジックパケット送信間隔(秒)	
debWakeupPhysAddrV		仮想アウトレット用の WOL 設定	"," 区切りで 8 箇所以内
popPort	110	POP3 ポート	0～65535
smtpPort	25	SMTP ポート	0～65535
mailRetryCount	3	メールリトライ回数	1～99
mailRetryInterval	10	メールリトライ間隔(秒)	1～999
ipAdPopServer		POP3 サーバアドレス	
ipAdSmtpServer		SMTP サーバアドレス	
etherSpeed	2	接続速度	0: 接続していない 1: 10.0Mbps 2: 100.0Mbps
nttcpBufferMax	10000	バッファサイズの最大値	64～300000
nttcpOpt_l	4096	バッファサイズ(-l)の省略値	64～300000
nttcpOpt_n	2048	バッファ数(-n)の省略値	1～999999999
nttcpOpt_g	0	送信間隔(-g)の省略値(マイクロ秒)	0～9999999
nttcpOpt_T	0	タイトル表示(-T)の省略値	0: 無し、1: 有り
nttcpOpt_f	文字列 3	出力書式(-f)の省略値	
nttcpSvIpAddr		サーバの IP アドレスの省略値	
nttcpSvPort	5037	サーバのポート番号(-p)の省略値	0～65535
nttcpDataPort	5038	データのポート番号	0～65535
nttcpMcPhAddr	01:00:5E:11:32:25	マルチキャストの MAC アドレス	
nttcpMcIpAddr	224.17.50.37	マルチキャストの IP アドレス(-m)の省略値	
nttcpMcPort	5047	マルチキャストのポート番号の省略値	0～65535
nttcpSumCheck	0	サムチェック制御	0: 無し 1: データ比較有りなら無し 2: 有り
nttcpTimeout	30	タイムアウト時間(秒)	3～999
nttcpAutoStart	0	サーバモードでの自動立ち上げ指定	0: 無し、1: 有り
pingPktSize	16	PING パケットのデータ長	16～1472
resetCause	1	リセット原因表示	
popErrorCount	0	PING 監視 POP サーバーへのアクセスエラー回数	0:表示のみ
ledBlinkEnabled	1	LED の点滅の有効化	0:無効 1:有効
clock		起動後の経過時間(秒)	
broadGroup	0	一斉電源制御の有効化	0:無効 1～8:グループ
broadPhysAddr		一斉電源制御側 MAC アドレス	
broadOlGrpNo	0,0,0,0,0,0,0,0	一斉電源制御 連動の有効化	0:無効 1～8:グループ
broadOlComNo	0,0,0,0,0,0,0,0	一斉電源制御 連動のコマンド	0:設定なし 1:MPON, 2:MPOF 3:MPOR
powerEnabled	1	電力測定の有効化	0:無効 1:有効
powerTestMode	1	電力テストモードの有効化	0:無効 1:有効
powerUpperA	7,7,7,7,7,7,7,7	電流 上限警報閾値	左→右 1→8 アウトレット
powerUpperW	5,5,5,5,5,5,5,5	電流 上限注意閾値	左→右 1→8 アウトレット
powerUpperH	2,2,2,2,2,2,2,2	電流 上限ヒステリシス	左→右 1→8 アウトレット
powerUpperASys	7	電流 上限警報閾値	機器全体
powerUpperWSys	5	電流 上限注意閾値	機器全体

powerUpperHSys	2	電流　上限ヒステリシス	機器全体
powerLineFreqMode	0	周波数測定	0:自動　1:50Hz　2:60Hz
powerLineFreqency	1,1,1,1,1,1,1,1	入力電源周波数	1:50Hz　2:60Hz
powerOlControl	0,0,0,0,0,0,0,0	電流監視電源制御設定	0:無動作 1:reverse 動作(On 動作) 2:無効（設定しないで下さい）、 3:normal 動作（Off 動作）
powerStatus	0,0,0,0,0,0,0,0	電流監視状態	0:正常　1:注意　2:警報
powerSysStatus	0,0	電流監視状態	0:正常　1:注意　2:警報
powerActionStatus	0,0,0,0,0,0,0,0	電源制御状態	0:通常動作中　1:制御中
powerCurrent		電流値(A)	”,”　区切りで 8 箇所
powerVoltage		電圧値(V)	”,”　区切りで 8 箇所
powerActPower		有効電力値(W)	”,”　区切りで 8 箇所
powerAppPower		皮相電力値(VA)	”,”　区切りで 8 箇所
powerAccActPower		有効電力量(kVAh)	”,”　区切りで 8 箇所
powerAccAppPower		皮相電力量(kVAh)	”,”　区切りで 8 箇所
powerCo2Emission		CO2 排出量(kg)	”,”　区切りで 8 箇所
powerStartDate		電力測定開始時間	”,”　区切りで 8 箇所
powerElapsedTime		電力測定経過時間	”,”　区切りで 8 箇所
powerCurrentSys	0	合計電流値(A)	
powerCO2Coeff	0.324	電力からの換算係数	0.000～9.999
powerPF		力率	”,”　区切りで 8 箇所
powerEnergyUnit	1	表示切替	有効電力量、単位 0:0.01　1:0.001[kWh] 皮相電力量、単位 0:0.01　1:0.001[kVAh] CO2 排出量　、単位 0:0.01　1:0.001[kg]
sshServerEnabled	0	SSH サーバーの有効化	0:無効　1:有効
sshServerPort	22	SSH サーバーの TCP ポート番号	
sshServerTimeout	10	SSH サーバーへのタイムアウト時間(秒)	
sshServerName	admin	SSH サーバーへの接続 ID	8 文字以内
sshServerPassword	magic	SSH サーバーへの接続パスワード	16 文字以内
logLevel	2	SSH 使用中の表示メッセージレベル	
sshPublicDsaKey		KEYGEN コマンドで生成する SSH キー	
sshPublicRsaKey		KEYGEN コマンドで生成する SSH キー	
sshKnownHost1 sshKnownHost2 sshKnownHost3 sshKnownHost4 sshKnownHost5 sshKnownHost6 sshKnownHost7 sshKnownHost8		SSH プロトコルでシャットダウンする ときのアウトレットごとのキー	
datalogLogMode	1 0000 0000	データログ記録モード(ビット 0 のみ有効)	0:無効　1:有効
datalogLogDisp	1 0000 0000	データログ表示モード(ビット 0 のみ有効)	0:無効　1:有効

datalogLogInterval	10	データログ記録間隔(分)	
nvInName	NV Input1	接点入力の名前	
nvInOutletCommand		接点入力短絡時連動コマンド電源出力制御	"," 区切りで 8 アウトレット
nvInContactCommand		接点入力短絡時連動コマンド接点出力制御	"," 区切りで 8 アウトレット
nvInStatus	0	接点入力 状態	0:開放 1:短絡
nvInCloseThreshold	1	接点入力 認識時間(秒)	
nvOutName	NV Output1	接点出力の名前	
nvOutLinkEnabled	0	接点出力 連動 連動ソース設定	0:連動なし 1:電源出力に連動 2:温度監視に連動 3:死活監視に連動
nvOutLinkOutlet	0,0,0,0,0,0,0,0	接点出力 連動 電源出力	0:連動なし 1～8 アウトレット No
nvOutLinkTempUpper	0	接点出力 連動 温度監視 上限警報	0:無動作 1:上限警報で動作
nvOutLinkTempLower	0	接点出力 連動 温度監視 下限警報	0:無動作 1:下限警報で動作
nvOutLinkPing	0	接点出力 連動 死活監視	0:無動作 1:異常で動作
nvOutActionMode	0	接点出力 連動 動作モード	0:通常動作 1:反転動作
nvOutStatus	0	接点出力 状態	0:開放 1:短絡
nvOutControlMode	0	接点出力 モード設定	0:短絡/開放 2:パルス出力
nvOutPulseWidth	50	パルス出力時のパルス幅(×10mSec)	
errorN	0	シャットダウンスクリプト中の検出エラー数	
versionupEnabled	1	バージョンアップの有効化	0:無効 1:有効

文字列 1 Meikyo Remote Power Controller, RSC-MT8FP Ver. 0.10A

文字列 2 Meikyo 100BASE-TX Driver

文字列 3 %9b%8.2rt%8.2ct%12.4rbr%12.4cbr%8c%10.2rcr%10.1ccr

■　ログ一覧表

内　　　容	情　　　報	TELNET などの LOG
ログ開始		Log Start
PING 送信	outlet no. Ipaddr no.	ping
PING 無応答	outlet no. Ipaddr no.	No Echo
死活判定(NoAction)	アウトレット no.	No Action
死活判定(REBOOT)	アウトレット no.	Outlet Reboot
死活判定(アウトレット ON)	アウトレット no.	Outlet On
死活判定(アウトレット OFF)	アウトレット no.	Outlet Off
正常／回復中	アウトレット no.	Outlet Recovered
スケジュール(REBOOT)	アウトレット no.	Outlet Reboot by Schedule
スケジュール(アウトレット ON)	アウトレット no.	Outlet On by Schedule
スケジュール(アウトレット OFF)	アウトレット no.	Outlet Off by Schedule
全アウトレット ON	アウトレット ALL ID (ID は接続者)	MPON
全アウトレット OFF	アウトレット ALL ID (ID は接続者)	MPOF
全アウトレット REBOOT	アウトレット ALL ID (ID は接続者)	MPOR
アウトレット ON	アウトレット no.ID (ID は接続者)	PON
アウトレット OFF	アウトレット no.ID (ID は接続者)	POF
アウトレット REBOOT	アウトレット no.ID (ID は接続者)	POR
UTY 接続	IPaddr	—>Uty
UTY ログインせず切断	IPaddr	<—Uty
UTY ログイン	Ipaddr ID (ID は接続者)	=>Uty
UTY ログアウト	Ipaddr ID (ID は接続者)	<=Uty
メールログイン要求	Ipaddr no.(no.は設定番号)	—>Mail
メールログイン	Ipaddr no.(no.は設定番号)	=>Mail
メールログアウト	Ipaddr no.(no.は設定番号)	<=Mail
TELNET 接続	IPaddr	—>Telnet
TELNET ログインせず切断	IPaddr	<—Telnet
TELNET 多重超接続	IPaddr	>>xTelnet
TELNET ログイン	IPaddr	=>Telnet
TELNET ログアウト	IPaddr	<=Telnet
Web 接続		—>Web
Web ログイン		=>Web
Web ログアウト		<=Web
PPPoE 接続した	IPaddr	PPPoE Connect
PPPoE 切断した		PPPoE Disconnect
PPPoE 切断された		PPPoE Disconnected
PPPoE ノットレディになった		PPPoE Modem Down
PPPoE レディになった		PPPoE Modem Up
PPPoE 接続状態に戻った		PPPoE Continue
PPPoE IP リンクが解放された		PPPoE IP Link Release
設定変更	[変数名] ID (ID は接続者)	variable set (xxxxx)
設定書込(WRITE)	ID (ID は接続者)	write to FROM
温度状態変化	正常、℃	Temperature Normal
温度状態変化	上限注意、℃	Temperature High Warning

温度状態変化	上限警報、℃	Temperature High Alarm
温度状態変化	下限注意、℃	Temperature Low Warning
温度状態変化	下限警報、℃	Temperature Low Alarm
NTP サーバ接続	hour minute second	NTP ── hh:mm:ss
NTP サーバ接続エラー		NTP Server Access Error
メールエラー		Mail Error
SSH サーバ接続	IPaddr	SSH Server Connected

■　制御コマンド一覧表

制御コマンド	内　　容
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リブート）
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始　n＝1～8
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止　n＝1～8
PORn	指定されたアウトレットのリブート（電源リブート）n＝1～8
PSRn	指定されたアウトレットの電源状態反転　n＝1～8
SON1	接点出力を短絡
SOF1	接点出力を開放
ＳＳＯ	接点出力の状態を取得
ＳＳＩ	接点入力の状態を取得
ＭＰＯＮＶ	全仮想アウトレットにマジックパケットを送信する。
ＰＯＮＶｘ	（ｘは1～8）　debWakeupInterval 後にマジックパケットを送信する。
OLSn	死活監視状態の表示　n＝1～8 ｎを省略すると全てのアウトレットを表示します。 コンマ区切りで表示。 Outlet No.　アウトレット番号[1～8] Power　電源状態[0：Off　1：On] Judge　判定[1：正常　2：異常　3：回復中] Action Count　Action 実行回数 Last Ping1　アドレス1の最後の応答[1：正常　2：異常] NoEchoCount1　アドレス1の未応答回数 NoEchoTime1　アドレス1の応答時間（ms） [0：未設定　1：応答時間　9999：未応答] Last Ping2　アドレス２の最後の応答[1：正常　2：異常] NoEchoCount2　アドレス２の未応答回数 NoEchoTime2　アドレス２の応答時間（ms） [0：未設定　1：応答時間　9999：未応答] Last Ping3　アドレス３の最後の応答[1：正常　2：異常] NoEchoCount3　アドレス３の未応答回数 NoEchoTime3　アドレス３の応答時間（ms） [0：未設定　1：応答時間　9999：未応答] Last Ping4　アドレス４の最後の応答[1：正常　2：異常] NoEchoCount4　アドレス４の未応答回数 NoEchoTime4　アドレス４の応答時間（ms） [0：未設定　1：応答時間　9999：未応答]
VER	バージョンの表示
POS	全アウトレットの電源状態取得 応答：mmmm 左側からアウトレット１～8 m=0：OFF　1：ON

XPOS	全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答：ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, 左側からアウトレット１～8 A=0：OFF　1：ON B=0：OFF 遅延中　1：ON 遅延中 XXXX=B のタイマ残り時間
PASS	パスワードの変更　新しいパスワードを２回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。
TELNET	変数「IpAdTelnetT」のアドレス、変数「remoteTelnetPortT」のポートに TELNET クライアントとして接続します。 DiscChar に設定した文字を入力すると切断終了する。 一度に受信するデータは、概ね 40K バイト以下でご利用ください。
DATE	年月日設定 例）DATE yy/mm/dd　yy：年　mm：月　dd：日
TIME	現在時刻設定（秒は省略可） 例）TIME hh:mm:ss　hh：時　mm：分　ss：秒
PING	ＩＣＭＰを4回送信します。 例）PING [IP アドレス]
IPCONFIG	ＬＡＮの通信設定を表示します。（例） IpAddress　192.168.10.1 SubnetMask　255.255.255.0 DefaultGateway　192.168.10.254 EhternetSpeed　100.0Mbps
CPURESET	CPU をリセットします。 コマンドを実行しても電源状態は変化しません。
PROMPT=n	0（プロンプト表示無し） 1（「 > 」のプロンプト表示 ） 2（「 機器名 > 」のプロンプト表示 ） *変数「promptMode」により接続直後のモードが決まります。
EXIT	回線切断　最初の文字が E, e, Q, q の場合は EXIT と認識します。

※「XPOS」「VER」「PASS」などいくつかのコマンドはログイン時のみ有効です。

■　仕様一覧表

通信仕様	LAN 通信仕様		ARP、TCP/IP、UDP/IP、ICMP、POP3、SSH、BOOTP、DHCP、TELNET、SMTP、APOP、NTP、HTTP、SNMP,PPPoE,NTTCP
	LAN 制御方法		SNMP マネージャー,TELNET
			TCP/IP ユーティリティ、Web
			E-mail
機能	電源制御／管理		電源 ON
			電源 OFF
			電源リブート
			電源状態取得
			グループ制御
	スケジュール機能		年間スケジュール機能
			RTC（Real Time Clock）による時刻保持
			NTP による時刻同期機能
			スケジュール ON/OFF 機能
	状態監視		ICMP送信
			通報機能：SNMP トラップ、UDP パケット
			Mail　通知
			電力監視機能
			温度監視（要オプション）
	WOL 対応機能		あり：MAGIC PACKET 送信
ハード仕様	インターフェース		10Base-T/100Base-TX　（RJ45）（IEEE802.3 に準拠）
			RS-232C（Dsub9　ピンオス）×2
			温度センサ（RJ11）
			無電圧接点入力　×１ 無電圧接点出力　×１　DC24V　0.7A（抵抗負荷）
	定格	最大制御出力	AC100V　15A　（1500W）
		消費電力	最大　5.8　W
		入力電源電圧	AC100V　±10%　（50/60Hz）
	使用環境		温度　5～40℃
			湿度　20～85%（ただし結露なきこと）
	外形寸法		438(W)　x43.4(H)　x238(D)　mm
	重量		4.0　kg
各種規格	特定電気用品認証品（電気用品安全法）、RoHS 指令準拠		

問い合せ先

明京電機株式会社

〒116-0012　東京都荒川区東尾久 4-27-2
TEL　03-3810-5580　FAX　03-3810-5546

ホームページアドレス
ｈｔｔｐ://www.meｉｋｙｏ.ｃｏ.ｊｐ/

ご注意

（1）本書および製品の内容の一部または全部を無断で複写複製することは禁じます。

（2）本書および製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

（3）本書および製品の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。

（4）本製品を運用した結果の影響については、（3）項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

（5）本製品がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社および弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

（6）弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

WATCH BOOT RSC-MT8FP
取扱説明書　 2012 年　 3 月　第 1.0c 版